

4-4 追加機能ライセンスについて

ライセンス・ファイルには追加機能についてのライセンスが設定されている場合があります。設定されている場合、追加機能ライセンスの欄にその一覧が表示されます。

追加機能ライセンスは静的に対象ユーザーへ割り当てを行います。指定されたユーザーのみが対象の追加機能を利用することができます。

追加機能ライセンスの項目は以下の通りです。

追加機能ライセンスの項目について

項目	説明
ID	追加機能ライセンスをあらわすPlug-in ID
ライセンス数	ライセンスされた利用可能ユーザー数
割り当て済み	ライセンスを割り当てたユーザー数
ライセンス残数	ライセンス数から割り当て済みを引いた数
備考	

追加機能ライセンスの行を選択すると、下にその追加機能におけるユーザーへの割り当て状況が表示されます。

追加機能ライセンス

ID	ライセンス数	割り当て済み	ライセンス残数
 jp.updateit.apis.option.contactreport2	100	0	100
 jp.updateit.apis.option.hive	200	3	197
 jp.updateit.apis.option.hive.share	200	3	197
 jp.updateit.apis.option.ectd	80	0	80
 jp.updateit.apis.option.ectdviewer	80	0	80

サイト・ライセンス

ID

追加機能ライセンスのユーザーへの割り当て状況

ユーザーID	ユーザー名	所属会社	部・課名称
☒ user1@sample.com	ユーザー-1	サンプル株式会社	スタッフ
☒ user2@sample.com	ユーザー-2	サンプル株式会社	スタッフ
☒ user3@sample.com	ユーザー-3	サンプル株式会社	スタッフ
☐ user4@sample.com	user4	サンプル株式会社	system administrator

全選択/非選択

 ユーザーへの割り当て状況の保存

チェックが付いたユーザーがライセンスを割り当てられたユーザーです。変更すると「ユーザー

への割り当て状況の保存」ボタンが活性化しますので、押すと保存されます。

追加機能ライセンスはライセンス数を越えて割り当てることはできません。

4-5 サイトライセンスについて

追加機能の中には、サイトライセンスという形で提供されるものもあります。サイトライセンスはライセンス形態の一種で、会社で1つ契約すればその会社のユーザーは原則全員が利用できるようなになるというものです。（会社の判断で利用制限をしない限り）

追加機能ライセンスと異なり、ユーザー毎のライセンス数といった概念はありません。

5 環境設定

5-1 環境設定で出来ること

環境設定メニューでは会社全体の利用方法に関わる各種の設定を行うことができます。設定できる項目は以下の通りです。

環境設定の項目一覧

項目	説明
ユーザ設定	一般ユーザがシステム管理者(admintoolを使うことができるユーザ)を兼ねることができるようにします。
グローバル・ワークグループ	複数のプロジェクトにまたがったワークグループを設定できます。
役割・権限	プロジェクトメンバーの編集画面で指定する役割と、その役割が持つ権限の追加・変更ができます。
ドキュメント・ステータス	作成中、承認待ち、承認済などといった、ドキュメントの状態を追加・変更することができます。
タグ	ファイルに追加情報をタグ付けすることができ、ここでタグの追加・変更ができます。
言語	会社全体の言語設定を指定します。
セキュリティ設定	パスワードの強度など、セキュリティ関連の項目を設定します。
URLリンク	ヘルプメニューに表示される「お知らせ」の名前やリンク先のURLを設定し、会社独自のページを用意することができます。日本語・英語でお知らせページを切り替えるといった場合に設定します。
メニュー設定	※カスタム・メニューエディションのライセンスが設定されている場合のみ利用できる機能です。 利用可能なメニューをグループ化したものがエディションであり、ここでは利用可能なメニューを選択して独自のエディションをメニュー設定として作成できます。各ユーザーのクライアント・エディション選択時に、作成したメニュー設定を適用することができます。

クライアントアプリケーション 設定	crossnoteクライアントアプリケーションの動作を設定します。 ・ログイン後のホーム画面 ・コピー時のファイル名の扱い ・旧バージョンとの互換性設定（エディタでのレイアウト） ・ソフトウェアアップデートサイトの設定 ・自動ソート機能有効化の設定
crossnote Shareのセキュリティ ポリシー	crossnote Shareの外部ユーザに対するセキュリティポリシーを設定します。この項目はcrossnote Shareのライセンスがあり、かつサーバーのバージョンがver 2.1.2以上の場合にのみ表示されます。
レビューシステム（廃止）	レビューシステムを使う構成に移行する場合に設定します。この仕組みを利用するにはレビューのユーザにレビューシステムのライセンスが必要となります。この設定は一度設定してしまうと元には戻せませんのでご注意ください。

5-2 ユーザ設定

一般ユーザがシステム管理者(**admintool**を使うことができるユーザ)を兼ねることができるようにする場合、設定してください。なおこの機能を使うにはサーバー/クライアントが**ver 2.1.2**以上である必要があります。

ユーザ設定

☐ 一般ユーザがシステム管理者(Admintoolを使うことが出来るユーザ)を兼ねることが出来るようにする

5-3 グローバル・ワークグループ

グローバル・ワークグループとは、複数のプロジェクトにまたがるワークグループです。一般にユーザをプロジェクトに所属させる場合、次の2つの方法があります。

- 1 プロジェクト毎にユーザをアサインする方法
- 2 ユーザをグローバル・ワークグループにアサインする方法

ユーザをグローバル・ワークグループにアサインした場合には、そのグローバル・ワークグループに設定されたプロジェクトに自動的に所属したことになります。

グローバル・ワークグループ				
名前(第1言語)	名前(第2言語)	コメント(第1言語)	コメント(第2言語)	プロジェクト
test-gwg-1	test-gwg-1	for test	for test	テストプロジェクト 2
ワークグループ1-4	Workgroup 1-4	コメントですよ	This is comment.	テストプロジェクト 1

グローバル・ワークグループの追加

グローバル・

なおこの機能はadmintoolおよびサーバーがver 2.0以降の場合に利用できます。

■ グローバル・ワークグループの追加／設定確認・変更

「グローバル・ワークグループの追加」、もしくは「グローバル・ワークグループの設定確認・変更」ボタンを押すと以下のような画面が表示されます。

グローバル・ワークグループの設定確認・変更

グローバル・ワークグループの定義を入力してください。

名前(第 1 言語) ワークグループ1-4

名前(第 2 言語) Workgroup 1-4

コメント(第 1 言語) コメントです

コメント(第 2 言語) This is comment.

▼ ☐ 株式会社やすなか [Yasunaka Inc.]

▼ ☐ テスト [TEST]

☒  テストプロジェクト 1 [Test project 1]

☐  テストプロジェクト 2 [Test project2]

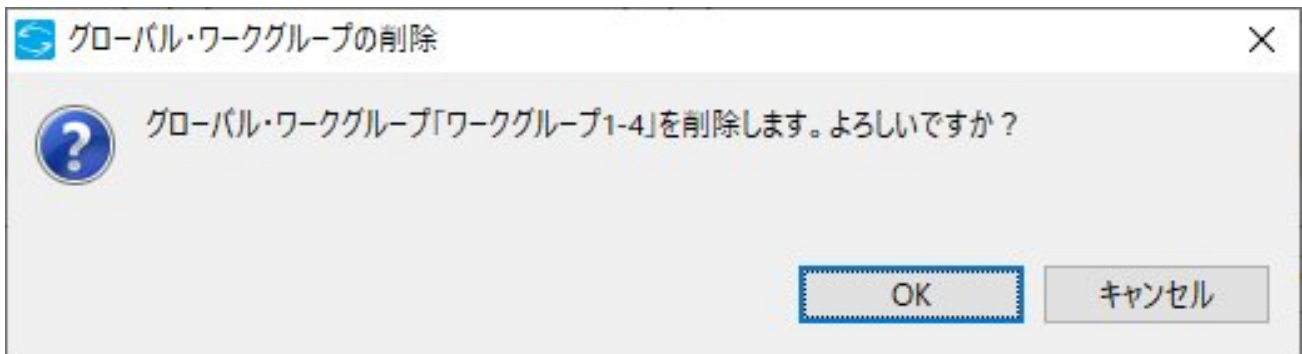
☐  テストプロジェクト 3 [Test project3]

OK キャンセル

グローバル・ワークグループの名前、コメント、および対象のプロジェクトを設定します。

■ グローバル・ワークグループの削除

対象のグローバル・ワークグループを選択し、「グローバル・ワークグループの削除」ボタンを押すと、確認の画面が表示され、OKを押すと削除されます。



グローバル・ワークグループを削除すると、そこに所属していたユーザーも対象のプロジェクトへの所属が解除されます。

5-4 役割・権限

プロジェクトにメンバーをアサインする際、各メンバーがプロジェクトの中でどのようなことが実行できるのか、役割を指定することで設定していました。

(設定方法は[プロジェクトへのユーザーのアサイン](#)参照)

環境設定では、役割の名前や役割が持つ権限を定義することができます。

デフォルトでも承認者、作成者、レビューといった役割が用意されていますが、よりきめ細かく役割を分けたい場合に利用してください。

名前(第1言語)	名前(第2言語)
プロジェクトアドミニストレータ	Project administrator
承認者	Approver
作成者	Worker
レビュー	Reviewer
外部参照者	Viewer

役割の追加 役割の変更 役割の並び替え 各役割に対する権限の変更

■ 役割の追加・変更

役割の追加を押すと以下のようなダイアログが表示され、第1言語、第2言語の名前を設定すると新たな役割が作成されます。ダイアログにもある通り、一度作成した役割は削除できませんのでご注意ください。

役割の追加

設定済みの役割は名称の編集は可能ですが削除できませんので、ご注意ください。

第1言語

第2言語

OK

キャンセル

役割の変更についても、同様のダイアログで既に存在する役割の名前を変更することができます。

■ 役割の並び替え

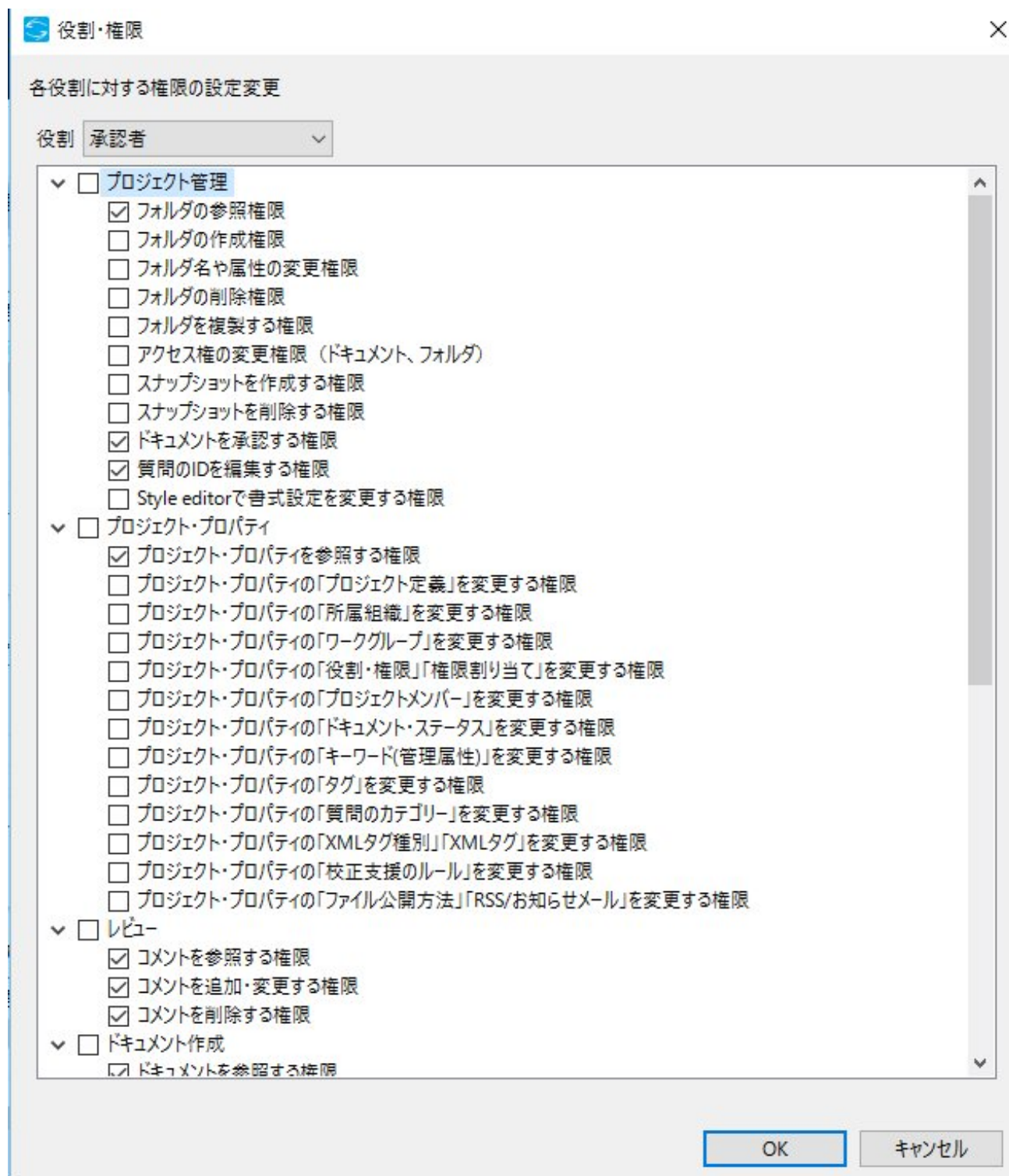
役割の並び替えを押すと、以下のようなダイアログが表示されます。

[illegible]

役割を選択して↑↓のボタンで順番を入れ替えます。入れ替えた順番はプロジェクトメンバーの編集画面等に反映されます。

■ 権限の変更

各役割に対する権限の変更を押すと、以下のようなダイアログが表示されます。



役割・権限

各役割に対する権限の設定変更

役割 承認者

- プロジェクト管理
 - ☒ フォルダの参照権限
 - ☐ フォルダの作成権限
 - ☐ フォルダ名や属性の変更権限
 - ☐ フォルダの削除権限
 - ☐ フォルダを複製する権限
 - ☐ アクセス権の変更権限 (ドキュメント、フォルダ)
 - ☐ スナップショットを作成する権限
 - ☐ スナップショットを削除する権限
 - ☒ ドキュメントを承認する権限
 - ☒ 質問のIDを編集する権限
 - ☐ Style editorで書式設定を変更する権限
- プロジェクト・プロパティ
 - ☒ プロジェクト・プロパティを参照する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「プロジェクト定義」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「所属組織」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「ワークグループ」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「役割・権限」「権限割り当て」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「プロジェクトメンバー」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「ドキュメント・ステータス」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「キーワード(管理属性)」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「タグ」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「質問のカテゴリ」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「XMLタグ種別」「XMLタグ」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「校正支援のルール」を変更する権限
 - ☐ プロジェクト・プロパティの「ファイル公開方法」「RSS/お知らせメール」を変更する権限
- レビュー
 - ☒ コメントを参照する権限
 - ☒ コメントを追加・変更する権限
 - ☒ コメントを削除する権限
- ドキュメント作成
 - ☒ ドキュメントを参照する権限

OK キャンセル

ここに表示されている権限に対して、チェックを入れるとその役割で実行することができるようになります。各ユーザーのクライアントでの操作に反映させるには、アップデートしてから再起動する

必要があります。

5-5 ドキュメント・ステータス

ドキュメント・ステータスは、作成中・承認待ちといった進捗情報や公開・非公開や編集可能・不可能の切り替えなど、ドキュメントの状態を管理するために使用します。環境設定では、ドキュメント・ステータスを新たに定義したり名前を変更したりできます。

ドキュメント・ステータス
Action IDがPUBLICのステータスはファイルの公開対象です。(プロジェクトが公開設定されている場合)

名前(第1言語)	名前(第2言語)	編集可	コメント(第1言語)	コメント(第2言語)	Action ID	タスク専用ステータス	表示	
作成中	Working	OK				いいえ	する	
公開	Public	OK				いいえ	する	
承認済	Approved	NG				いいえ	する	

ドキュメント・ステータスの追加 ドキュメント・ステータスの変更 ドキュメント・ステータスの並び替え

■ ドキュメント・ステータスの追加・変更

ドキュメント・ステータスの追加を押すと、以下のようなダイアログが表示されます。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

ドキュメント・ステータスの変更

ドキュメント・ステータス

日本語 英語

ドキュメントステータス名称 レビュー

☒ 編集可

公開範囲

公開範囲がPUBLICのステータスは、プロジェクト設定で指定したファイル公開方法にて公開対象となります。

日本語 英語

コメント

☐ タスク専用ステータス
チェックすると手動では変更できなくなり、タスクを介してのみ利用できるステータスとなります。

設定に必要な役割 (指定した役割のユーザのみがこのステータスに変更できます)

(設定なし)

解除に必要な役割 (指定した役割のユーザのみが他のステータスへ変更できます)

(設定なし)

解除に必要な役割や、設定に必要な役割を指定したステータスはファイル新規作成時には選択できません。

☒ 表示する(チェックを外すと一覧表示の対象外となります)

OK キャンセル

(1) ドキュメント・ステータスの名称を設定します。

(2) 「編集可」のチェックをはずすと、当該ドキュメント・ステータスのドキュメントは編集ができなくなります。

(3) 公開範囲はドキュメントの公開方法を設定するのに使用します。**PUBLIC**を選択すると、当該ドキュメント・ステータスのドキュメントは公開対象となります。どのような形で公開するかは、[プロジェクトの登録](#)を参照してください。

(4) 各ユーザーがステータスを変更する際の画面に表示させるコメントを付けることができます。どのような場合に当該ステータスを使うのかの補足情報や注意事項を必要に応じて記載してください。

(5) 「タスク専用ステータス」は、タスク機能と連動させる場合に使用します。主に、承認申請機能において、承認待ちや承認済といったステータスを承認フローと必ず連動させたい場合、タスク専用ステータスにチェックを入れると、承認機能を介してしかステータスを変更できなくなります。

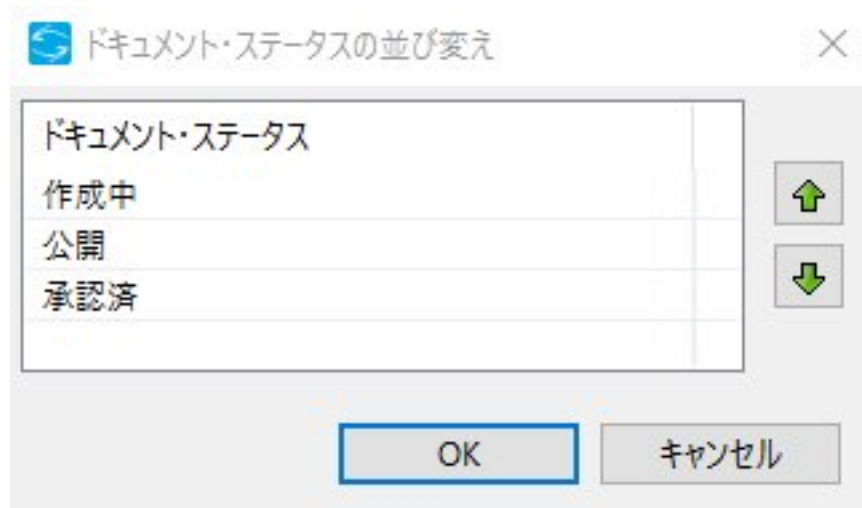
(5) 当該のドキュメントステータスを設定することができる権限と、当該のドキュメントステータスから他のドキュメントステータスに変更できる権限を指定することができます。

(7) 「表示する」のチェックを外すと、ユーザーがステータスを変更する際の選択肢に表示されません。一度作成したステータスは削除することができないため、使用しなくなったステータスは非表示としてください。

ドキュメント・ステータスの変更についても追加と同様の画面です。既に存在するステータスの定義を変更したい場合に使用します。

■ 並び替え

ステータスの表示順を変更する場合に使用します。



ステータスを選択して↑↓で順番を変更します。

5-6 タグ

ドキュメントの状態を管理するドキュメント・ステータスとは別の切り口でドキュメントを分類したい場合、ドキュメントにタグを付けることで分類することができます。

タグの利用方法はユーザー・マニュアルの[タグによる絞り込み](#)を参照してください。指定のタグが付加されたドキュメントのみをワークスペースに表示させるといった際に使用します。

環境設定では、タグの名称や新規追加などを行います。

タグ
ファイルを新規作成する際、タグの並び順で一番上にくるものがデフォルトのタグとなります。

名前(第1言語)	名前(第2言語)	表示
成果物	Deliverables	する
整理	Studies	する

タグの追加 タグの変更 タグの並び替え

■ タグの追加・変更

タグの追加を押すと、以下のようなダイアログが表示されます。

タグの追加

表示をしないとしたタグは一覧表示から除外されます。

第1言語

第2言語

☒ 表示対象とする

OK キャンセル

第1言語、第2言語に名前を入力し、OKを押すと新規のタグが作成されます。

表示対象とするのチェックを外すと、ユーザーがタグを選択する際に表示されません。一度作成したタグを削除することはできないため、使用しなくなったタグはタグの変更にて表示対象とするのチェックを外してください。

タグの変更についても、タグの追加と同じ画面で、既に存在するタグの名称変更や表示・非表示の設定を変更します。

■ 並び替え

並び替えについても、他の項目と同様に、ダイアログにて↑↓で順番を変更できます。

5-7 言語

会社全体の言語設定を行います。ここで設定した言語設定は、管理ツールやクライアントソフトのメニュー表示などの言語を切り替えるものではありません。プロジェクト定義や所属組織などのプロパティの項目に影響します。クライアントソフトの使用言語、ユーザーが入力した文字、ここでの言語設定で切り替わる項目はそれぞれ異なりますのでご注意ください。以下はクライアントソフトは日本語のまま、環境設定の言語設定第1言語と第2言語を英語にしてプロジェクトのプロパティを表示した例です。本設定において影響しているのは赤丸で囲まれた部分となります。

言語テストのプロパティ

プロジェクト定義

英語 英語

Project name 言語テスト

Project name(abbreviation)

プロジェクトWebページ

URL:

☐ Webページを起動時に開く

アクセス権

所有者グループ The whole of project

アクセス権の設定

元に戻す 適用

閉じる(C)

第1言語、第2言語それぞれについて、ドロップダウンメニューから選択し、言語設定の更新を押すと設定が変更されますが、反映するには再起動が必要であるため、再起動するかの確認ダイアログが表示されます。

言語

通常用いる言語（=Lang 1 / ローカル言語）、およびローカル言語が通じない場合のコミュニケーション用の共通言語(=Lang 2)を指定します。
言語設定はプロジェクト等にも行います。ここでの設定は会社全体としての設定で、たとえば「所属組織」プロパティでの使用言語などに影響します。

第1言語

日本語

ローカル言語を指定します。例えば日本の会社の場合には通常、日本語を指定します。

第2言語

英語

英語など、ローカル言語が通じない場合のコミュニケーション用の共通言語を指定します。

言語設定の更新

5-8 セキュリティ設定

ここではセキュリティに関わる各種の設定を行います。

セキュリティ設定
FDA 21 CFR Part111対応などに必要なセキュリティ設定を行います。

(1) ☐ ユーザーの削除操作を禁止する (注意: この項目は一度設定すると戻せなくなります)

(2) ☒ オフラインでの利用を認める

(3) ☐ パスワードのセキュリティ要件を厳しくする

(4) ☒ crossnoteクライアントでのパスワードの保存を認める

(5) ☐ 多段階認証を必須とする

(6) ☒ 多段階認証の簡便化を許可する

(7) ☐ パスワードをメモリに保持する (通常はOFF。Pluginが必要な場合にのみONにすること)

Tips
パスワードのセキュリティ要件を厳しくすると、複雑なパスワード、および定期的なパスワード変更(90日毎)が必要となります。
なおパスワードのセキュリティ要件の設定はActive Directoryユーザーには影響しません。
多段階認証の簡便化を許可した場合、前回と同一クライアント、同一ユーザーで、かつ前回ログインから7日以内のアクセスの場合には多段階認証を設定していてもスキップします。

(8) ☐ セッション・タイムアウトを用いる 120 (分) 設定

Tips
セッション・タイムアウトを指定すると、ネットワークを利用する機能を使わない状態でその時間を過ぎた場合、オフライン状態となります。
オンライン状態に戻すためにはパスワードの再入力が必要です。

(9) プロジェクトの有効期間(日数)のデフォルト値 [日数(または空白)] 設定

Tips
プロジェクトの有効期日はプロジェクトのデータや監査用の履歴などを削除できなくする期間を指定するためのもので、プロジェクト毎に設定します。
プロジェクトを新規に作成する際、ここで指定した日数分だけ後の日付をプロジェクトの有効期日のデフォルト値とします。
この値が空白の場合、プロジェクトの有効期日はデフォルトでは設定されません。

(10) ファイル検証用キーの種類 検証用キー(SHA-1) ▼

(1) 「ユーザーの削除操作を禁止する」にチェックを入れると、管理ツールからもユーザーを削除することができなくなります。一度設定すると戻せなくなるため、ユーザー管理の運用方法を事前に良く検討の上、設定してください。

(2) 「オフラインでの使用を認める」にチェックを入れると、オフライン状態でログインできるようになります。ネット環境のない場所で作業を行う必要が想定される場合などにチェックを入れます。チェックが入ると、クライアントソフトのログイン時に☐オフラインで使用するにチェックを入れてログインすることができるようになります。(設定していないと、ログインに失敗します)

(3) 「パスワードのセキュリティ要件を厳しくする」にチェックを入れると、パスワード設定の際に3種類以上、合計8文字以上のパスワードが要求され、また、定期的なパスワード変更(90日毎)が要求されるようになります。

(4) 「crossnoteクライアントでのパスワードの保存を認める」にチェックを入れると、Webブラウザのようにパスワードをcrossnoteクライアント内に保存できるようになります。なおこの場合、パスワードは暗号化してPC内に保存されます。

(5) 「多段階認証を必須とする」にチェックを入れると、まだ多段階認証を設定していないユーザーがログインした時に多段階認証の登録画面に推移します。(ver 3.0以降)

(6) 「多段階認証の簡便化を許可する」にチェックを入れると、**crossnote**ユーザは前回と同一クライアント、同一ユーザで、かつ前回ログインから7日以内のアクセスの場合には多段階認証を設定していてもスキップされます。(ver 3.0以降)

(7) 「パスワードをメモリに保持する」は利用するプラグインでこれにチェックを入れるように指示がある場合のみお使いください。

(8) 「セッション・タイムアウトを用いる」にチェックを入れると、指定した分数の間ネットワークを利用していないとオフライン状態となり、ネットワーク利用時に再度ログインが必要となります。

(9) プロジェクトの有効期間のデフォルト値はデフォルトで空白となっていますが、日数を入力すると、プロジェクト毎に設定するプロジェクトの有効期間のデフォルト値（下限値）を設定することができます。有効期間の設定されたプロジェクトは、期間中に削除することができなくなります。

(10) ファイル検証用キーのアルゴリズムを指定できます。

5-9 URLリンク

URLリンクは、ヘルプメニューに掲載されているお知らせやマニュアルへのリンクについて、名前を変更したりリンク先を変更したりする場合に設定します。例えば、日本語用のマニュアルと英語用のマニュアルのリンク先を分けたい場合などに利用します。

URLリンク

URLリンクはlang毎に別々のURLを設定できます。
またURLリンクを設定しない場合には、crossnoteのデフォルトのURLが使用されます。

項目	名前	lang	URL	説明
お知らせ				お知らせはcrossnoteの起動時に該当のURLページが変更されたときに自動的に...
▼ マニュアル	マニュアル	ja	http://devsv06/manual/	crossnoteのマニュアルへのページを指定します。
最初にお読みください				ユーザーが最初に利用した際に開くページですが、変更しても有効に作用しません。...
リリースノート				crossnoteのバージョンアップ後に1回だけ開くページです。
品質管理(QMS)				品質管理用のページを指定します。

リンクの追加

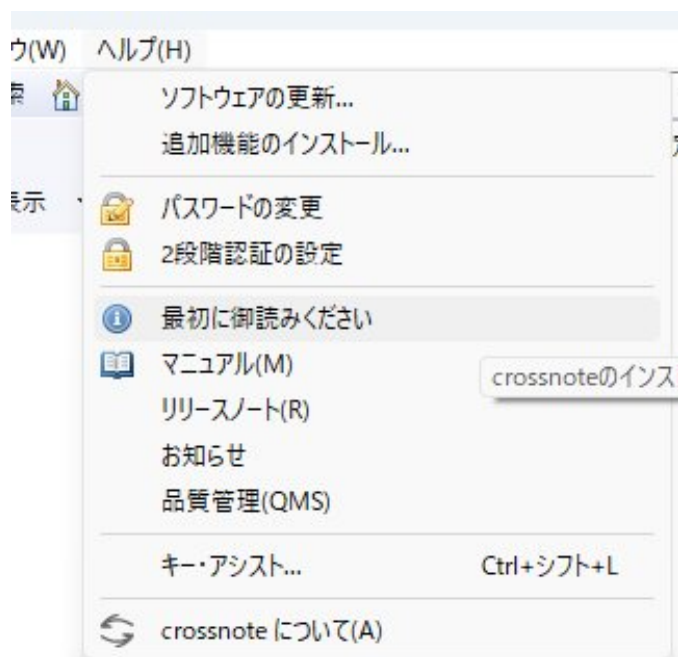
リンクの変更

リンクの削除

ここで設定を変更できる項目は5種類あります。

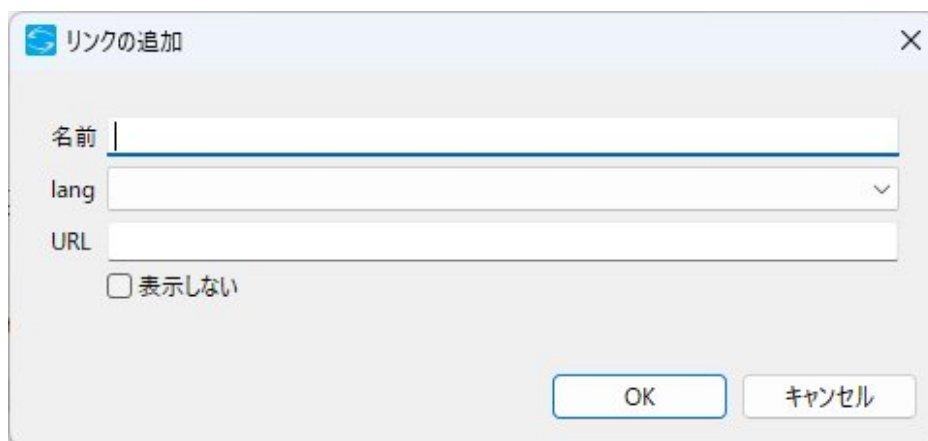
項目	内容
お知らせ	crossnoteの起動時に当該のURLページが変更された時に自動的に開きます。
マニュアル	crossnoteのマニュアルのページ
最初にお読みください	インストール直後に表示されるページです。変更しても有効に作用しませんのでご注意ください。
リリースノート	crossnoteのバージョンアップ後に1回だけ開くページです。
品質管理	品質管理用のページを指定します。

これらはcrossnoteクライアントのヘルプメニューの中にリンクがあります。



■ リンクの追加・変更

デフォルトで用意されているリンク先を変更する場合、変更したい項目を選択した状態でリンクの追加を押すと下のようなダイアログが表示されます。



「名前」はメニューに表示させる名前、「lang」はクライアントソフトの言語設定に対応した使用言語、「URL」にリンク先のURLを指定します。

もしメニューに対象の項目を表示させたくない場合には「表示しない」にチェックを入れてください。なおマニュアルに対しては「表示しない」は使えません。

上記の設定変更をcrossnoteクライアント側に反映するには、crossnoteクライアントでアップデートをした上で再起動する必要があります。

リンクの変更についても、追加と同じ画面で、既に存在するリンクの情報を変更します。

リンクの削除については、作成したリンクを選択した状態でリンクの削除を押すと確認ダイアログが表示されますので、**OK**を押すとリンクが削除されます。1つもリンクがない場合はデフォルトのものが適用されます。

なお、同じ言語に対して複数のリンクを設定しても、リンクが適用されるのは最後に作成した1つのみとなりますのでご注意ください。

5-10 メニュー設定

本設定はカスタム・エディションをご契約の場合にのみ設定できます。ユーザーが使用できる機能・メニューは権限設定などで制限を掛けることもできますが、そもそもメニューに表示させたくないといった場合には、使用できる機能・メニューのレベルでカスタマイズする必要があります。使用できるメニューはエディションの単位で管理しており、コンプリートエディションなど通常のはメニューが固定されています。カスタム・エディションを利用すると、本設定によりメニューをカスタマイズすることができ、いわば任意のエディションを作成することができます。ここで作成したメニュー設定をユーザーの新規作成や修正時に適用することで、特定のユーザーグループには限られたメニューしか表示させない、といったことが実現できます。

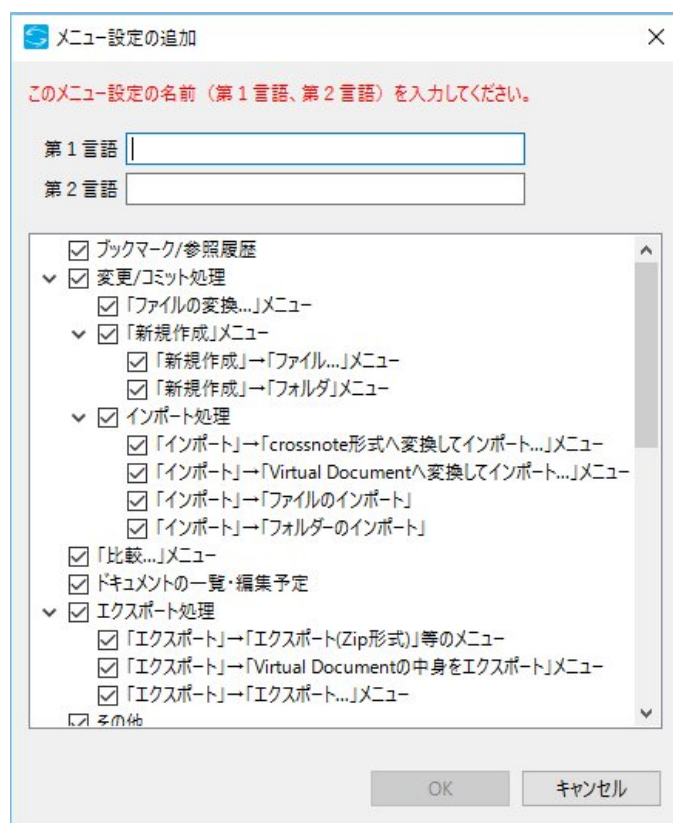
メニュー設定
業務に合わせて必要のないメニューを外します

名前(第1言語)	名前(第2言語)	
ライター用メニュー	writer menu	

メニュー設定の追加 メニュー設定の変更 メニュー設定の削除

■ メニュー設定の追加・変更・削除

メニュー設定の追加を押すと、以下のようなダイアログが表示されます。



様々なメニューに対して、使用する・しないを設定できます。メニューは階層構造となっていますので、親のメニューのチェックボックスをクリックすると子のメニューすべてのチェックが切り替わります。もちろん部分的にチェックを外すこともできます。

メニュー設定の変更についても、追加と同じ画面にて、既に作成されたメニュー設定を変更します。

メニュー設定の削除については、選択したメニュー設定を削除します。1人でも当該メニュー設定が割り当てられているユーザーがいると削除はできませんので、ユーザー管理の修正にてクライアント・エディションの項目から該当者のエディションを変更した後、メニューの削除を実行してください。

5-11 クライアントアプリケーション設定

クライアントアプリケーション設定

crossnoteクライアントの動作の設定します。なおこの設定はユーザの初回利用時には反映されません。

☒ ログイン後にホーム画面を開く

☒ コピー時に同じファイル名が存在している場合に、数字部分を+1する

☐ crossnoteドキュメントのEditorに旧レイアウト設定を用いる (旧レイアウト設定の場合、ディスプレイのフォント設定変更の影響を受けやすくなります)

☐ crossnoteドキュメントをPDFエクスポートする際、テキストのサイズを以前のバージョン(ver 2.1.6以前)の状態に戻す

☐ Smart View機能(ドキュメントを編集中の時に、ワークスペースから関連しない機能を自動的に隠す機能) をデフォルトとする

☐ Portfolio/Projectの表示順番を自動的にソートする。

☐ ファイルの表示順序を自動的にソートする (※ユーザによる変更可)

☒ 変換されたファイルの操作履歴を扱う (※ ONにするとver 1.9.5以前のクライアントではエラーが発生する場合があります)

Tips

Portfolio/Projectの表示順番を手動で変更する場合、チェックを外したのち「プロジェクト管理」上から並べ替えを実施してください。また、本項目を再度チェックした場合、並べ替え情報は消去されます。

デフォルトフォントの設定

プラットフォーム	デフォルトフォント	デフォルト英数字フォント名	デフォルトフォント(明朝/Serif)	デフォルト英数字フォント名(明朝/Serif)
Windows	游ゴシック	游ゴシック	游明朝	游明朝
MacOS	YuGothic	YuGothic	YuMincho	YuMincho
Linux	Noto Sans CJK JP	Noto Sans CJK JP	Noto Serif CJK JP	Noto Serif CJK JP

デフォルトフォントの追加

Tips

(明朝/Serif)のフォントは明朝体/Serif系のフォントが指定されているときに、それがPCにインストールされていない場合に用いられるフォールバックフォントです。
デフォルトフォントの設定はプラットフォーム(Windows/MacOS/Linux/Chromebook)毎に設定できます。特定のプラットフォームによらない場合は「特定せず」とします。

(1) ログイン後にホーム画面を開く

チェックされている場合、crossnoteクライアントの起動直後にホーム画面を自動的に開きます。デフォルトはONです。

(2) コピー時に同じファイル名が存在している場合、数字部分を+1する

crossnoteクライアントでファイルをコピーした時の挙動は以下のようになります。

コピー時のファイル名

設定状態	説明	例
------	----	---

チェック	ファイル名に数字を含む場合、数字部分を+1する	「テスト文章」をコピーして貼り付けた場合、以下になる。 「コピー～テスト文章」 「コピー(2)～テスト文章」 「テスト文章1.0」をコピーして貼り付けた場合、以下になる。 「テスト文章2.0」 「テスト文章3.0」
非チェック	ファイル名に数字を含む、含まないに関わらず、「コピー」を付加する形式の名前に変更する	「テスト文章」をコピーして貼り付けた場合、以下になる。 「コピー～テスト文章」 「コピー(2)～テスト文章」 「テスト文章1.0」をコピーして貼り付けた場合、以下になる。 「コピー～テスト文章1.0」 「コピー(2)～テスト文章1.0」

(3) crossnoteドキュメントのEditorに旧レイアウト設定を用いる

crossnoteのver 1.9.0以前のバージョンではディスプレイの解像度を変更した際にテキストの折り返し位置が変わってしまっていました。この問題に対処するため、crossnoteのver 1.9.0のメンテナンスリリース#2（2019年2月18日リリースバージョン）において、Editorのレイアウト設定部分を更新し、ディスプレイの解像度を変更しても影響を受けにくくなるようにしました。

旧バージョンのレイアウト設定のまま利用した場合には、この項目をチェックすることで旧レイアウトを保つことができます。（ただしこの場合、ディスプレイの解像度を変更した場合の影響を受けやすくなります）

(4) crossnoteドキュメントをPDFエクスポートする際、テキストのサイズを以前のバージョン(ver 2.1.6以前)の状態に戻す

crossnoteのver 2.1.7においてPDFエクスポートの際のテキストのサイズをcrossnote上での表示に近づける修正を行っていますが、過去の出力結果との整合性の問題からこの修正の影響が出ないようにしたい場合、チェックしてください。

(5) Smart View機能（ドキュメントを編集の時に、ワークスペースから関連しない機能を自動的に隠す機能）をデフォルトとする。

Smart View機能はドキュメントを編集する際に、ワークスペースには編集のドキュメントのみを表示するようにする機能で、余計な項目が表示されなくなります。ただし編集ではない他のドキュメントを参照したい場合、ワークスペースの「すべて表示」を選択する必要があります。

このSmart View機能は各ユーザ毎に設定を変えることができます（「ウィンドウ」→「設定」→「一般設定」→「ワークスペースのフィルタ機能(Smart View設定)」）。ここでは全体としてのデフォルトとして、ON/OFFどちらの状態にしておくかを設定することができます。

(6) Portfolio/Projectの表示順番を自動的にソートする

crossnoteのver 1.9.3（2019年9月末リリースバージョン）から、ポートフォリオ・プロジェクトの並び順について、管理者による一括管理・操作ができるようになりました。

本項目をOFFにすると、プロジェクト管理画面から順番の並び替え機能が追加されます（操作方法は[3-8 ポートフォリオ・プロジェクトの並べ替え](#)参照）

従来通りの並び順を戻したい場合は、本項目を再度ONに戻してください。ONに戻した時点で、すべての利用者の画面に対して自動的にソートするようになります。その際、手動で並び替えた順番は、再度OFFにして復元することができます。（本項目のデフォルト値はONです）。

(7) ファイルの表示順序を自動的にソートする

ワークスペースにおけるファイルの表示順序のデフォルト設定を指定します。なおワークスペースにおけるファイルの表示順序は各ユーザ毎に設定を変えることができます。

(8) 変換されたファイルの操作履歴を扱う

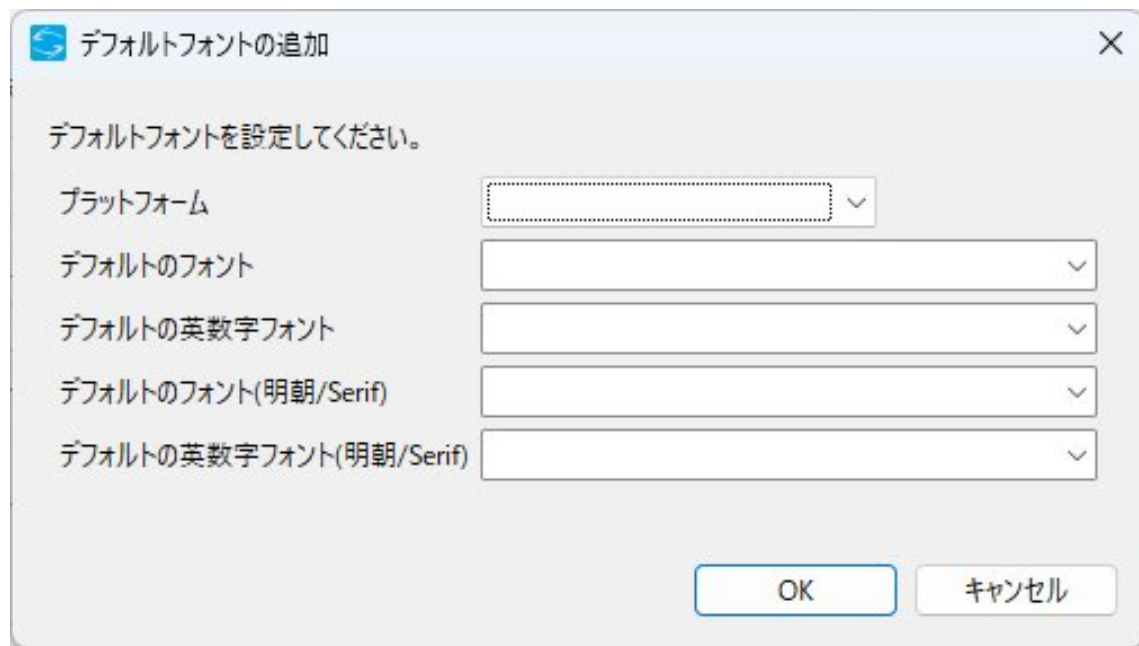
この機能は変換されたファイルを開いた場合に、それを操作履歴に含めるかどうかを指定します。この機能をONにした場合、**ver 1.9.5**以下の**crossnote**クライアントではエラーが発生する場合がありますので、必ずすべてのクライアントが**ver 1.9.5**以上である状態で利用してください。

(9) デフォルトフォントの設定

デフォルトフォントとは、テンプレートなどにおいてフォント設定が行われていない場合に用いられるフォントです。また実行環境に指定されたフォントがインストールされていない場合にも用いられます。**ver 2.X**まではデフォルトフォントは指定方法がなく、**Windows**環境では「**MSゴシック**」のように決まっていたましたが、**ver 3.0**以降ではプラットフォームごとにデフォルトフォントが指定できるようになりました。

項目	説明
プラットフォーム	対象とするプラットフォーム Windows / MacOS / Linux / Chromebook / 特定せず
デフォルトフォント	日本語文字列に対する基本とするデフォルトフォント
デフォルト英数字フォント	英数字に対する基本とするデフォルトフォント
デフォルトフォント(明朝/Serif)	指定されているフォントがインストールされていない場合において、元のフォントが明朝/Serifだと判定した場合に用いるデフォルトフォント
デフォルト英数字フォント(明朝/Serif)	指定されているフォントがインストールされていない場合において、元のフォントが明朝/Serifだと判定した場合に用いる英数字に対するデフォルトフォント

設定画面は以下のようになっています。



各プラットフォームごとにフォントを指定する場合、**admintool**の実行環境にインストールされていないフォントを指定できるように、フォントはドロップダウンリストだけでなく、直接フォント名を指定できるようになっています。

5-12 ソフトウェアのアップデート

crossnoteクライアントの自動バージョンアップや、プラグインの配布等をコントロールする場合に使います。

ソフトウェアのアップデート

crossnoteクライアントのソフトウェアの自動更新用モジュールの場所(URL)を指定します。また自動インストールするpluginを設定します。

crossnoteクライアント・ソフトウェアのアップデートサイト(URL): URLの設定

Tips

 crossnoteクライアントのソフトウェアのアップデートサイトは一旦設定すると削除できません。
ソフトウェアのアップデートサイトには自己証明書(オレオレ証明書)は利用できません。

追加インストールするPlugin

エディション	リポジトリURL	Plugin ID
▼ Complete edition	http://devsv06/tools/	jp.updateit.apis.option.docflow2excel
▼ Light edition	http://devsv06/option/3.0/	jp.updateit.apis.option.textpallet.conv
▼ テストメニュー1	http://devsv06/tools/	jp.updateit.apis.option.refcleaner

(1) crossnoteクライアント・ソフトウェアのアップデートサイト(URL)

crossnoteクライアントのソフトウェアのアップデートサイトを独自に設定することにより、crossnoteクライアントの自動バージョンをコントロールできるようになります。アップデートサイトとはcrossnoteのアップデート用モジュールを配置しておくWebサイトで、独自に設定したい場合にはお客様自身が用意する必要があります。

なお一旦URLを設定すると削除できません。またcrossnoteが使用しているベースソフトウェアの制限により、ソフトウェアのアップデートサイトには自己証明書（オレオレ証明書）は利用できません。

ソフトウェアのアップデートサイトは各PC毎に設定されています。このため同じPCで他のログインユーザに切り替えた場合、前のログインユーザでソフトウェアのアップデートサイトが切り替えられていた場合にはその切り替え後のURLが使用されます。

(2) 追加インストールするPlugin

ver 3.0から追加インストールするpluginを自動配布できるようになりました。その場合、ライ

センスのエディション（カスタムライセンスの場合にはメニュー）毎に配布する**plugin**と、その配布元となるリポジトリ**URL**を指定します。

5-13 crossnote Shareのセキュリティポリシー

以下のcrossnote Shareのセキュリティポリシーは、crossnote Shareのライセンス(jp.updateit.apis.option.hive.share)があり、かつサーバーのバージョンがver 2.1.2以上の場合にのみ表示されます。

crossnote Shareのセキュリティポリシー

crossnote Shareの外部ユーザに対するセキュリティポリシーを設定します。

☒パスワード登録時に複雑なパスワードを要求する

☒定期的なパスワード変更を要求する

☐二段階認証を要求する

☒メールのダウンロードURLを表示させない

Shareに表示するロゴ(100px X 100px)

(未設定)

ロゴを設定

ロゴの設定を解除

(1) パスワード登録時に複雑なパスワードを要求する

選択すると、パスワードを登録・変更する際、全体で8文字以上、大小英数字および記号から3種類以上を組み合わせ、よくある単語に類似しない文字列でないと登録できなくなります。

(2) 定期的なパスワード変更を要求する

選択すると、90日ごとにパスワードの変更が必要となります。

(3) 二段階認証を要求する

選択すると、パスワードを登録する際、ソフトウェアトークン(Google AuthenticatorやMicrosoft Authenticatorなどのスマホアプリ)を用いたワンタイム・パスワードによる2段階認証の登録が必要となります。

(4) メールのダウンロードURLを表示させない

選択すると、ファイルを外部ユーザに送る際の通知メールにおいて、**crossnote Share**のURLは含めないようにします。

(5) Shareに表示するロゴ

crossnote Shareで外部ユーザの画面に表示するロゴを指定できます。ファイルは**PNG**、**GIF**、**JPEG**のいずれかのフォーマットで、**100px × 100px**の大きさで表示しますので、それに合わせたロゴのイメージファイルをご用意ください。

6 タスク設定

crossnoteではドキュメントの承認やレビューといった業務フローをタスクという単位で管理しています。承認申請やレビュー依頼の利用方法については、ユーザー・マニュアルの[承認フローおよびタスクについて](#)を参照してください。ここでは、会社毎の業務フローに合わせて、承認とレビューそれぞれのステータスの設定を変更することができます。

基本的な設定方法は承認、レビュー共通です。ステータスの項目自体は固定となっており、追加・削除することはできません。ここで設定できるのは「対応するドキュメント・ステータス」を紐付けすることと、「このタスクステータスに変更するのに必要な役割」を設定することです。

The screenshot shows the 'タスク設定' (Task Settings) window in the CROSSNOTE management tool. It contains two main sections: '承認依頼' (Approval Request) and 'レビュー依頼' (Review Request). Each section has a table with columns for 'タスク・ステータス' (Task Status), '対応するドキュメント・ステータス' (Corresponding Document Status), and 'このタスクステータスに変更するのに必要な役割' (Role required to change to this task status).

承認依頼 (Approval Request) Table:

タスク・ステータス	対応するドキュメント・ステータス	このタスクステータスに変更するのに必要な役割
依頼中	承認中	
承認	承認済	
棄却	棄却	
済		
キャンセル	作成中	

レビュー依頼 (Review Request) Table:

タスク・ステータス	対応するドキュメント・ステータス	このタスクステータスに変更するのに必要な役割
依頼中	レビュー中	
完了	レビュー終了	レビュー
条件付完了	レビュー終了	レビュー
再レビュー		レビュー
レビュー不要	作成中	レビュー
済	レビュー終了	
対応済み		
キャンセル	作成中	

Below the tables, there are checkboxes for additional settings:

- ☒ 承認済みのドキュメントについては全員にアクセス権を付与する
- ☒ 可能であれば、ドキュメントの承認時にPDFに変換して保存する

At the bottom, there is a checkbox for 'crossnoteクライアントでWord, Excel, PDFでレビューを行う際、レビューモードを使用する' and a button for 'レビュー依頼の設定変更'.

6-1 対応するドキュメント・ステータス

タスク・ステータスを変更した際に、ドキュメント・ステータスを連動して変更する設定にできます。例えば、承認申請において、タスク・ステータスが「承認」となった場合にドキュメント・ステータスも合わせて「承認済」にするように設定できます。承認済のドキュメント・ステータスが公開対象となっていれば、承認したものを即時公開としたり、編集不可となっていれば承認後のドキュメントの編集を禁止したりといったことが実現可能です。承認申請上は承認されているのに、ドキュメント・ステータスを承認済に切り替えていなかったためにファイルの内容を変更してしまった、などという不整合を防ぐことができます。

また、環境設定の [ドキュメント・ステータス](#) の設定画面において、タスク専用ステータスに指定したドキュメント・ステータスについては、ここで設定したタスク・ステータスに変更することでしか、当該ドキュメント・ステータスに変更することができなくなります。タスク専用ステータスに設定しておくことで、ドキュメント・ステータスの側を手入力することで発生する不整合も防ぐことができます。

設定の方法は、承認申請かレビュー依頼のタスク・ステータスを選択した状態で右下の設定変更を押すと以下のようなダイアログが表示されます。後述の役割についても、同じ画面で一度に設定できます。

承認申請タスクに関する設定

タスクステータスに対する条件を設定します。
ドキュメントステータスを設定する場合には、対象のドキュメントが書き込み可能でなければ動作しないことに留意してください。
例えば書き込み不能なドキュメントステータスを設定されたドキュメントは自動的にドキュメントステータスを変更することはできません。

タスク・ステータス

依頼中

対応させるドキュメントステータス:

設定しない

ドキュメントステータスを設定した場合、タスクのステータスに応じてドキュメント・ステータスが自動的に設定されます。

役割:

設定しない

役割を設定した場合、このタスク・ステータスを実行できるのはその役割を持ったユーザーのみにになります。
誤って設定するとタスクが割り振られたのにユーザーが何もできなくなる場合がありますので、注意してください。

OK

キャンセル

6-2 このステータスに変更するのに必要な役割

本設定は、タスク・ステータスを変更できる役割を限定したい場合に設定します。

ただし、承認申請における「承認」「棄却」については役割・権限の設定において「ドキュメントを承認する権限」が設定された役割を割り当てられたユーザーに固定されていますので、本設定で変更することはできません。

利用場面としては、例えば承認申請のタスク・ステータスを「依頼中」にできる（つまり承認申請を起案できる）のを「作成者」に限る、といったことが想定されます。その場合、承認者の権限のみが与えられているユーザーは、メニューに承認申請が表示されず、自分が申請することはできなくなります。（他のユーザーから申請された承認タスクを承認することは可能です）

設定方法是对应するドキュメント・ステータスと同じ画面から行います。

6-3 リリース管理機能

リリース管理機能については、ユーザー・マニュアル「[リリース管理機能について](#)」を参照してください。

リリース管理

リリース管理機能は下記のすべてのドキュメント・ステータスの種類について、ドキュメントステータスを設定しない場合には利用できません。

ドキュメント・ステータスの種類	対応するドキュメント・ステータス	
リリース実行後のワーキングコピー側ドキュメントのステータス	リリース中	
リリース実行後のリリースプロジェクト側ドキュメントのステータス	リリース	
リリース解除後のワーキングコピー側ドキュメントのステータス	作成中	
リリース解除の対象とするリリースプロジェクト側ドキュメントのステータス	リリースチェック済み	

Ollama (Local LLM)	自社内のサーバーで設定したLocal LLMを使う場合に選択します。Ollamaはオープンソースで公開されているLocal LLMを稼働させるための仕組みです。
Amazon Bedrock (Converse API)	Amazon社の提供するBedrockを使う場合に選択します。
Azure Open AI	Microsoft社のAzure上でOpen AIモデルを利用する場合に選択します。
サービスのURL	LLMのサービスを提供しているサーバーのURLを設定します。
API Key	Open AI、Google Gemini、もしくはClaudeを利用する場合に、その認証キーを設定します。
認証用ユーザID	Ollamaを利用する際にBASIC認証を必要とする際に設定します。
認証用パスワード	Ollamaを利用する際にBASIC認証を必要とする際に設定します。
Prompt cache	Chat GPTもしくはClaudeでPrompt cacheの仕組みを使う場合にONにします。（Geminiは常にONとなっています。） なおこれが使えるかどうかはモデルで異なります。
改善フィードバック ・ルールの作成	改善フィードバック・ルールとはAIエージェントの過去の履歴から問題の要点を整理して記録し、以降の実行に反映できるようにする仕組みです。 過去のメッセージ履歴（記憶）を整理してルールを作成し、以降の実行時にそのルールをシステムプロンプトに反映させることができますようにします。
コンテキストウィンドウサイズの最大値	Chat Completion APIやOllamaなどを利用する際に、対象のモデルが処理可能なコンテキストウィンドウサイズの最大値を設定します。
MCPサーバーの利用	MCPサーバーの利用を許可するかどうかを設定します。
エージェント機能におけるローカルファイルの添付	エージェント機能において、crossnoteに登録されていないPCローカルファイルの添付を認めるかどうかを指定します。

表にはcrossnoteのAIサポートのサービスについての情報が表示されます。

項目名	内容
タスクの種類	どのようなAIサポート機能に関する設定か
カスタム・タスク名	カスタムサービスの場合に設定したタスク名
有効/無効	このサービスの有効・無効の設定状態
カスタム・タスクの処理方式	カスタム・タスクの場合に設定
対象部品	変換対象となる部品の種類
モデル	LLMのモデル
プロンプト文	処理を行う際のプロンプト文
備考	上記以外の個別の設定項目

タスクの追加、変更、削除、並び変えが可能です。

なお対象のタスクの種類によっては変更可能な項目が限られる場合があります。

AIサポートで利用する機能の修正

タスクの種類カスタムタスク

カスタム・タスク名TEST

☒有効/無効

カスタム・タスクの処理方式AIエージェントによる処理 (エージェント・モード)

カスタム・タスクのエージェント・モードの実行方法

クライアント・エディションによる対象ユーザの絞り込み

全ユーザを対象とする

設定...

実行レベル☒調べるだけ ☐編集操作を含む

☒メニューから

☐ファイルの新規作成・追加時

☐ファイルの保存・更新時

☐ファイルを開く時

☐コミット前

範囲の選択 参照可能範囲:RELEASE TEST

☒ファイルの修正にCode interpreterを利用する (Code interpreterはうまく動作しない場合があります)

☒Memory Baseを利用する (保存された内容は社内で共有されます)

カスタム・タスクのドキュメントに対する処理

☒見出しを変換対象とする

☒本文を変換対象とする

☒辞書枠の説明部を変換対象とする

☒表枠を変換対象とする

☒図形枠を変換対象とする

☒タイトル (辞書枠のタイトル部、表枠のタイトル、図形枠のタイトル) を変換対象とする

モデルgpt-5.4

Reasoning effortdefault

与えられた文章を~してください。

OK

キャンセル

なお各設定項目の中身についてはcrossnoteユーザマニュアルの[AIサポート機能 \(オプション機能\)](#)をご参照ください。

6-6 リマインドメール

タスクの終了予定日の少し前から、完了していないタスクについてはリマインドメールが毎日送られます。終了予定日を過ぎても完了していない場合、しばらくは送られます。

リマインドメール

送信時間

00:00

▼

送信を開始する日 期限前

2

日

送信を停止する日 期限後

7

日

送信時間は、毎日何時に送るかを設定します。

送信を開始する日 期限前は、タスクの終了予定日の何日前からリマインドメールを送るようにするのかを設定します。

送信を停止する日 期限後は、終了予定日を過ぎても完了していないタスクについて、リマインディングメールを送るのをやめる日にちを設定します。

6-7 Webhookの設定

Webhookの設定はWebhookのサイトライセンス(jp.updateit.apis.option.webhook)が設定されている場合にのみ表示されます。

Webhookの設定

Webhookを設定すると、crossnoteにファイルをコミットしたり、ドキュメントステータスを変更した際に外部サービスへ通知することができます。

有効	Webhook URL	説明	対象	ファイルパターン	アクション	認証ヘッダーキー
☒	https://example.com/webhook	テスト用Webhook	ver 2.1.2	(未定義)	ファイル追加,ファイル更新,フ...	(未定義)
☐						
☐						

追加更新削除

項目名	説明
有効	この項目が有効かどうか（はい/いいえ）
Webhook URL	Webhookの通知先URL
説明	このWebhookの設定についての説明
対象	Webhookの対象とする範囲（プロジェクト、もしくはポートフォリオ、もしくは会社全体）
ファイルパターン	Webhookを通知する際のファイルパターン。例) *.xlsx
アクション	どのようなアクションに対してWebhookを発生させるか
認証ヘッダーキー	Webhookを通知する際のヘッダーに対する認証キーを指定する

■ Webhookの追加・更新

Webhookの追加および更新の場合、以下のような画面が表示されます。

Webhookの設定

Webhookの通知先のURLや通知を行う際の条件、認証情報などを設定してください。

サンプル

☒ 有効

Webhook URL

説明

対象範囲を選択...

(未設定)

☐ ファイルパターンを指定

ワイルドカード「*」を使い、対象のファイルを絞り込むことができます。例えば*.pdfとすると、対象範囲にあるすべてのpdfという拡張子のファイルが対象となります。なお特定のフォルダを指定する場合には「/」から始めてください。また複数のパターンを指定するには「;」で区切ってください。

通知を送信する条件

☐ ファイル追加

☐ ファイル更新

☐ ファイル削除

☐ ドキュメントステータスの変更

☐ 属性キーワードの変更

☐ コメント追加

☐ EDITROOMでのドキュメント生成

☐ EDITROOMでの検証失敗

認証用ヘッダーキー

認証用ヘッダー値

☐ テンプレートを用いて送信するメッセージをカスタマイズする

☒ 一括して送信する ☐ ファイルごとに送信する

ContentType

テンプレート

ファイルごとに送信する間隔

0

(msec)

テンプレートのテスト

OK

Cancel

(1) サンプル

Webhookの設定をサンプルから取得することができます。なおこのサンプルはEDITROOMサービス用のもので、EDITROOMが使えない場合には中身がありません。

(2) 有効

このWebhookの設定を有効にする場合、チェックします。無効の場合にはWebhookを発生させません。

(3) Webhook URL

Webhookの通知先のURLを指定します。

(4) 説明

このWebhookについての説明を記述します。

(5) 対象範囲を選択...

Webhookを発生させる範囲（会社全体、指定ポートフォリオ、指定プロジェクト）を設定します。

(6) ファイルパターンを指定

チェックするとWebhookを発生させる対象のファイル名のパターンを指定できます。もし特定のフォルダ以下のファイルだけを指定したい場合には、/から開始して、フォルダのパスを指定してください。また複数のパターンを指定する場合、;で区切ります。

(7) 通信を送信する条件

Webhookを発生させるアクションを指定します。

- ◆ ファイル追加
- ◆ ファイル更新
- ◆ ファイル削除
- ◆ ドキュメントステータスの変更
- ◆ 属性キーワードの変更

- ◆ コメント追加
- ◆ EDITROOMでのドキュメント生成
- ◆ EDITROOMでの検証失敗

(8) 認証ヘッダーキー および 認証ヘッダ値

Webhookを通知する際に認証用のヘッダーのキーと値を指定する必要がある場合、設定します。

(9) テンプレートを用いて送信するメッセージをカスタマイズする

チェックすると、送信メッセージをテンプレートを使って記述することができます。チェックしなかった場合、既定のWebhook通知が送信されます。

(10) 一括して送信する および ファイルごとに送信する

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズする場合、複数ファイルが対象となっている際に、それらを一括して1回で送信するか、もしくはファイル数の回数に分けて送信するかを選択します。

(11) ContentType

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズする場合、送信ヘッダーのContentTypeを指定します。なおエンコーディングは常にUTF-8です。

(12) テンプレート

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズする場合の、テンプレートを記述します。テンプレートには変数を指定することができます。

この際、変数として属性キーワードの値を指定することができます。\$(属性キーワード)のように指定します。

さらに以下のような変数を指定することができます。

変数名	対象のAction	意味
\$(id)	常に利用可	WebHookのユニークID、または bw_publisherのrequestId
\$(companyId)	常に利用可	テナント(会社)のID
\$(projectId)	常に利用可	projectのID
\$(date)	常に利用可	発生日時
\$(shareBox)	ADD_FILE,UPDATE_FILE, DELETE_FILE	インポートしたShareのBOX名。これは crossnote Shareからインポートした場合の み変換される。
\$(action)	常に利用可	WebhookのAction
\$(apisUri)	BW_PUBLISHER_VALIDATE _ERROR以外	生成されたドキュメントのApisURI
\$(nodeId)	BW_PUBLISHER_VALIDATE _ERROR以外	生成されたドキュメントのID
\$(filePath)	BW_PUBLISHER_VALIDATE _ERROR以外	生成されたドキュメントのパス
\$(documentStatus)	UPDATE_DOCUMENT_STA TUS	ドキュメントステータス
\$(exportType)	BW_PUBLISHER_COMPLET ED	生成ドキュメントの種別
\$(secureUrl)	BW_PUBLISHER_COMPLET ED	生成ドキュメントへのURL(要API Key)
\$(publicUrl)	BW_PUBLISHER_COMPLET ED	生成ドキュメントへの公開URL
\$(num)	-	ファイルのインデックス番号 (0, 1, 2, ...)

以下の変数はファイル数だけ繰り返す場合にのみ利用可能です。

◆ \$(action), \$(apisUri), \$(nodeId), \$(filePath) \$(documentStatus)

以下の変数はEDITROOMからの出力の場合のみ利用可能です。

◆ \$(exportType), \$(secureUrl), \$(publicUrl)

また\$(publicUrl)は公開設定となっているファイルの場合のみセットされます。

一括して送信する場合に、ファイル数分繰り返しを指定するには以下のように記述します。

```
${この中ではファイル数だけ繰り返す$$区切り文字$}
```

この場合、中の変数にはファイル数だけ繰り返す場合のものを使うことができます。例えば以下の例ではurlを""でくくり、,で繋げています。

```
`${$(url)}$$,$}
```

ファイルの繰り返しの指定はネストさせることはできません。

指定した変数が定義されている場合のみ出力する場合には以下のように記述します。

```
`${変数名}{ここに内容を書く$!}
```

下の例は、変数boxが定義されている場合のみ、"box": "ほにゃらら"; と出力する例です。

```
`${(box)}{"box": "${(box)}";$!}
```

この指定もネストさせることはできません。

上記の変数や制御用構文はテンプレートのエディタ上で右クリックによるポップアップメニューから選択することができます。

(13) ファイルごとに送信する間隔

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズしている際にファイルごとに送信する場合に、Webhookの1回あたりの送信の間隔をmsecで指定します。

(14) テンプレートのテスト

テンプレートを用いて送信メッセージをカスタマイズする場合、各変数や制御用構文がどのように展開されるのかをダミーの値を用いてテストするための仕組みです。ボタンを押すと以下のような画面が表示されます。





対象とするアクション ADD_FILE

☐ Shareからのインポート操作時

再評価

結果

```
=== 0 ===
{
  "docflow_name": "docflow4",
  "export_type": "pdf",
  "records": {
    "shareBox": "${shareBox}",
    "source-file": "apis:¥/¥/p-yyyy¥/d-ddd"
  }
}
=== 1 ===
{
  "docflow_name": "docflow4",
  "export_type": "pdf",
  "records": {
    "shareBox": "${shareBox}",
    "source-file": "apis:¥/¥/p-yyyy¥/d-eee"
  }
}

```

Close

アクションによって展開対象となる変数が異なりますので、指定したアクションで正しく変換されているかどうかをチェックしてください。

7 リソース管理

リソース管理画面では、プロジェクト毎のファイル数やデータのサイズ、アクセス状況などを把握することができます。

CROSSNOTE - 管理ツール									
ファイル(F) 編集(E) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)									
ユーザー管理 プロジェクト管理 ライセンス管理 環境設定 タスク設定 リソース管理 履歴 Active Directory 設定状況 お知らせ									
プロジェクトのリソース状況									
ファイル数は削除されたファイルの分も含みます。またデータサイズは概算であり、1日1回更新されます。									
履歴データの自動削除の設定:OFF 古い履歴データの削除 更新 エクスポート									
プロジェクト名	ファイル数	データサイズ	プロジェクト作成日	最大revision	最初の履歴日	ユーザー数	セットアップ数	30日間のアクセ...	60日間のアクセ...
▼ テスト									
EDITROOM1	17	5,419(kb)	2022/01/11	28	2022/01/11	3	4	0	0
Share link test 1	1	110(kb)	2024/08/20	12	2024/08/20	19	1	0	0
a	0	5(kb)	2022/02/04	4	2022/02/04	2	1	0	0
テストプロジェクト1	26	35,049(kb)	2021/04/07	301	2021/04/07	6	9	0	0
テストプロジェクト1のコピー	17	8,579(kb)	2024/05/13	16	2024/05/13	0	0	0	0
テストプロジェクト5	0	3(kb)	2022/04/20	2	2022/04/20	1	0	0	0
テストプロジェクト2	208	330,605(kb)	2021/03/31	1795	2021/03/31	8	6	0	0
テストプロジェクト3	75	11,669(kb)	2021/04/07	132	2021/04/07	7	3	0	0
テストプロジェクト4	27	369(kb)	2021/10/11	46	2021/10/11	8	6	0	0
テストプロジェクト5	76	699(kb)	2022/06/02	23	2022/06/02	5	2	0	0
テストプロジェクト6	0	11(kb)	2022/06/02	4	2022/06/02	6	1	0	0
テストプロジェクト7	0	6(kb)	2022/06/24	4	2022/06/24	3	0	0	0
自動分類テスト	2807	20,018(kb)	2021/12/24	20	2021/12/24	3	1	0	0
全ポートフォリオ数: 1, 全プロジェクト数: 13						admin@yasunaka2.com			

以下のような項目があります。

項目名	内容
プロジェクト名	対象のプロジェクトの名称
ファイル数	プロジェクトに登録されているファイル数
データサイズ	プロジェクトの過去の履歴を含めたデータサイズ
プロジェクト作成日	プロジェクトを作成した日付
最大revision	プロジェクトの履歴の数
最初の履歴日	プロジェクトの履歴の最初の日付
ユーザー数	プロジェクトにアサインされたユーザーの数
セットアップ数	プロジェクトをセットアップしているユーザーの数。ただし同一ユーザーで複数個所にセットアップしている場合にはそれらもカウントする。
N日間のアクセス数	過去N日間においてプロジェクトにおいて参照されたファイル数。 (N=30, 60, 90, 180)

右上には以下のようなアクション・ボタンがあります。

履歴データの自動削除の設定	ONにするとプロジェクト毎にセットアップ済みのユーザがアップデイトして取得済みの履歴より以前の履歴（承認履歴やスナップショットの履歴を除く）を自動的に削除します。
古い履歴データの削除	選択したプロジェクト（複数選択可）について、指定した日付より以前の履歴を削除します。 なお指定日以降アップデートを行っていないユーザのプロジェクトは次回のログイン時にセットアップが自動的に解除されます。またその場合、未コミットのドキュメントの修正は破棄されます。
更新	画面の内容を更新します。
エクスポート	画面の内容をExcelファイルへエクスポートします。

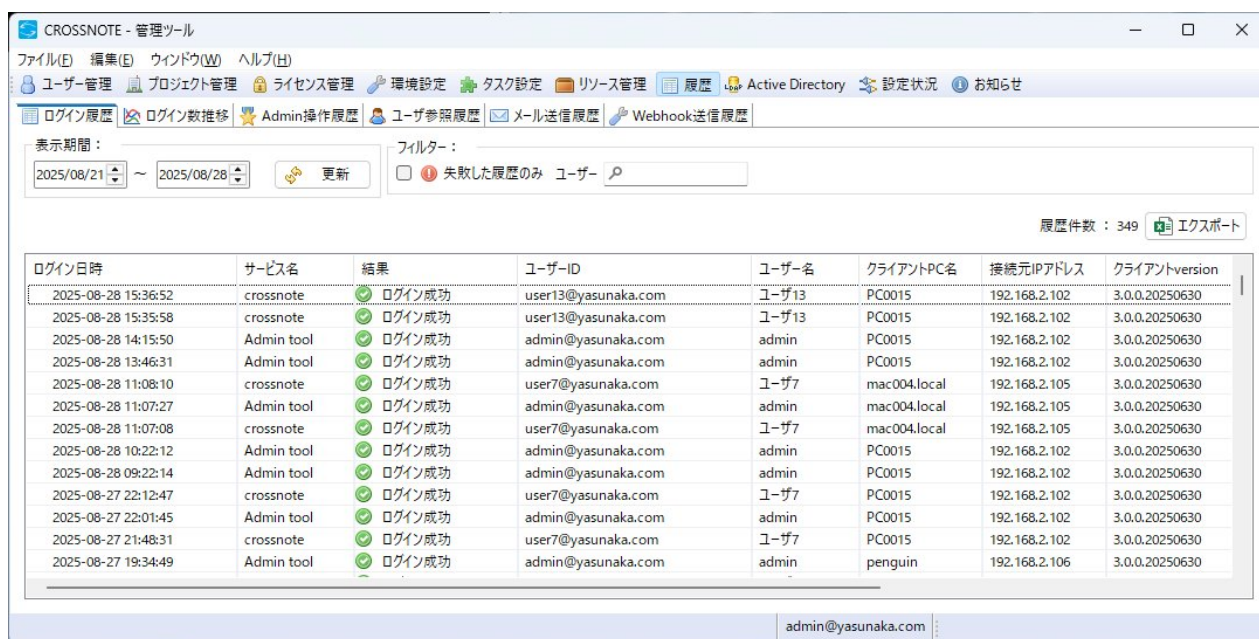
8 履歴

AdminToolではログイン履歴、ログイン数推移、Admin操作履歴、ユーザー参照履歴、メール送信履歴を切り替えて見ることができます。

8-1 ログイン履歴画面について

ログイン履歴画面では各ユーザーのログイン履歴を確認することができます。また一定回数ログインに失敗した場合にも記録されますので、不正ログインの可能性などをチェックすることができます。一度に表示できる件数の上限は1万件です。表示期間に制限はなく、利用開始から本日までのログイン履歴を確認することができます。

ログイン履歴画面は以下のようになっています。



ログイン日時	サービス名	結果	ユーザーID	ユーザー名	クライアントPC名	接続元IPアドレス	クライアントversion
2025-08-28 15:36:52	crossnote	ログイン成功	user13@yasunaka.com	ユーザ13	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 15:35:58	crossnote	ログイン成功	user13@yasunaka.com	ユーザ13	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 14:15:50	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 13:46:31	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 11:08:10	crossnote	ログイン成功	user7@yasunaka.com	ユーザ7	mac004.local	192.168.2.105	3.0.0.20250630
2025-08-28 11:07:27	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	mac004.local	192.168.2.105	3.0.0.20250630
2025-08-28 11:07:08	crossnote	ログイン成功	user7@yasunaka.com	ユーザ7	mac004.local	192.168.2.105	3.0.0.20250630
2025-08-28 10:22:12	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-28 09:22:14	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-27 22:12:47	crossnote	ログイン成功	user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-27 22:01:45	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-27 21:48:31	crossnote	ログイン成功	user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0015	192.168.2.102	3.0.0.20250630
2025-08-27 19:34:49	Admin tool	ログイン成功	admin@yasunaka.com	admin	penguin	192.168.2.106	3.0.0.20250630

表示期間やフィルターなどを使って、確認したい履歴を絞り込んでください。

項目は以下の通りです。

ログイン履歴の項目

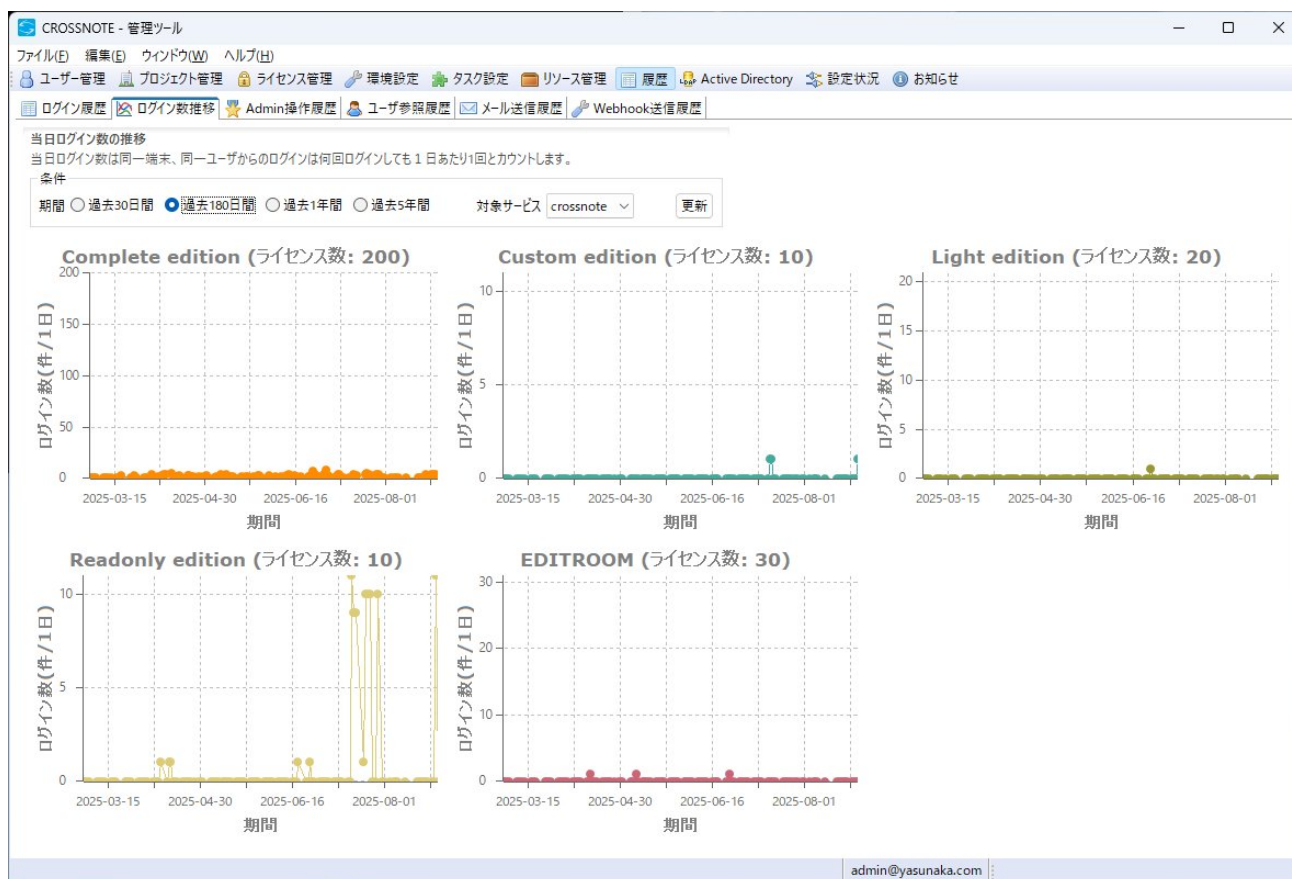
項目名	説明
ログイン日時	ログインした（もしくは試みた）日時

サービス名	crossnote、admintool、HIVE、SHARE、Contact Report2
結果	 ログイン成功、  パスワード・エラー、  ロックされています、  ライセンスが足りません
ユーザー	対象のユーザーID
ユーザー名	対象のユーザー名
クライアントPC名	クライアントPC名
接続元IPアドレス	サーバー側から見た接続元のIPアドレス
クライアントversion	crossnoteクライアント、もしくはadmintoolでログインした場合、そのバージョン
Web Browser (User-Agent)	HIVE、SHARE、Contact Report2でログインした場合、ブラウザの種類を表すUser-Agentとして送られてきた値。

検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、**Excel**ファイルとして取り出すことも可能です。

8-2 ログイン数推移

各エディション毎に当日ログイン数の状態をグラフ化して表示します。



表示期間は以下の4つから選べます。

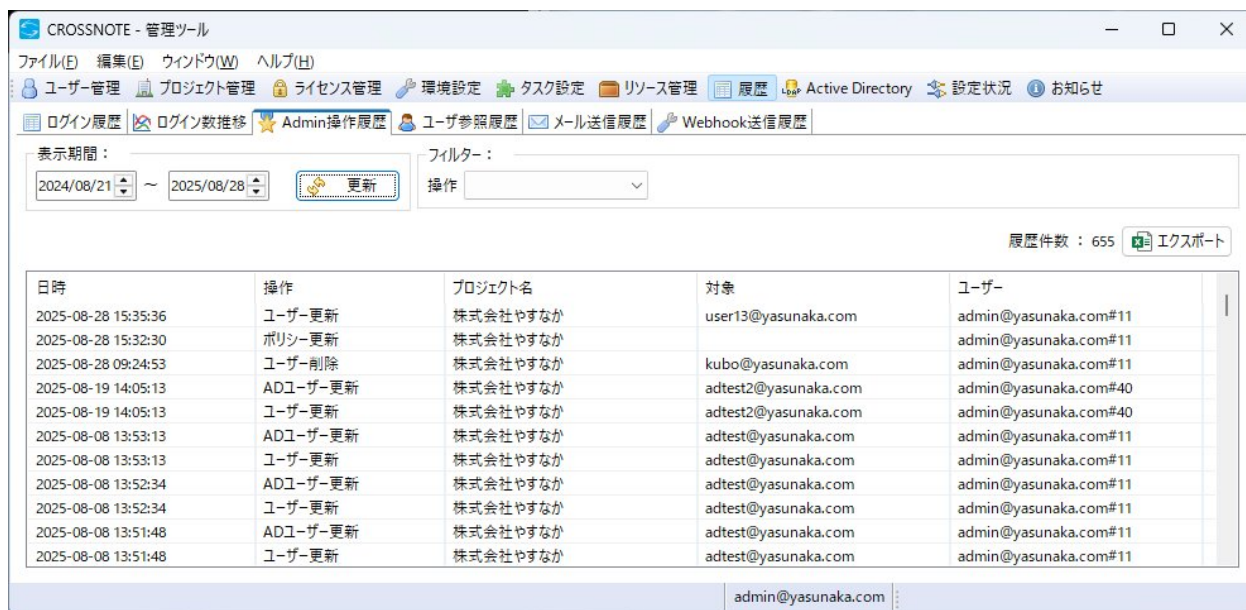
- ◆ 過去30日間
- ◆ 過去180日間
- ◆ 過去1年間
- ◆ 過去5年間

さらに表示対象のサービスとして **crossnote / HIVE / Share**を選択できます。

8-3 Admin操作履歴について

Admin操作履歴画面ではAdminツールで行った操作の履歴を確認することができます。一度に表示できる件数の上限は1万件です。表示期間に制限はなく、利用開始から本日までの操作履歴を確認することができます。

Admin操作履歴画面は以下のようになっています。



表示期間やフィルターなどを使って、確認したい履歴を絞り込んでください。

項目は以下の通りです。

Admin操作履歴の項目

項目名	説明
日時	操作を行った日時
操作	操作名称
プロジェクト名	対象のプロジェクト名
対象	操作対象
ユーザー	操作を行ったユーザ

検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、Excelファイルとして取り出すことも可能です。

8-4 ユーザー参照履歴について

ユーザー参照履歴画面では、選択したユーザーの操作履歴を確認することができます。表示できる件数の上限はありません。表示期間に制限はなく、利用開始から本日までの操作履歴を確認することができます。

ユーザー参照履歴画面は以下のようになっています。

The screenshot shows the 'CROSSNOTE - 管理ツール' window. The '履歴' (History) menu is active, and the 'ユーザー参照履歴' (User Reference History) sub-menu is selected. The '表示期間' (Display Period) is set from 2025/08/21 to 2025/08/28. The '対象ユーザ' (Target User) table lists several users, with 'user7@yasunaka.com' selected. The main table displays the history of operations performed by this user, including actions like '開く' (Open) and 'テスト' (Test) on various documents and projects.

日時	操作	プロジェクト	ドキュメント	Apis URI
2025/08/28 11:08:17	開く	ver 3.0.0	ああああ	apis://p-0fmp4ed79amihob62r0lgqhev/d-
2025/08/27 22:31:03	開く	ver 3.0.0	ドキュメント構成ファイルA.apisd	apis://p-0fmp4ed79amihob62r0lgqhev/xf-
2025/08/27 22:30:57	開く	ver 3.0.0	docstructure2.apisd	apis://p-0fmp4ed79amihob62r0lgqhev/xf-
2025/08/27 22:29:56	開く	ver 2.1.11	ドキュメント構成ファイル.apisd	apis://p-t2j893p6pdmif593g72i71nlkt/xf-dc-
2025/08/27 22:29:47	開く	ver 2.1.11	構成ファイルテスト.apisd	apis://p-t2j893p6pdmif593g72i71nlkt/xf-0t-
2025/08/27 22:29:42	開く	ver 3.0.0	docstructure2.apisd	apis://p-0fmp4ed79amihob62r0lgqhev/xf-
2025/08/27 22:29:36	開く	ver 3.0.0	ドキュメント構成ファイルA.apisd	apis://p-0fmp4ed79amihob62r0lgqhev/xf-
2025/08/27 22:13:12	開く	ver 3.0.0	ああああ	apis://p-0fmp4ed79amihob62r0lgqhev/d-
2025/08/27 22:12:55	開く	ver 2.1.11	テスト	apis://p-t2j893p6pdmif593g72i71nlkt/d-23-
2025/08/27 21:48:43	開く	ver 2.1.11	テスト	apis://p-t2j893p6pdmif593g72i71nlkt/d-23-

表示期間欄で確認する期間を、対象ユーザ欄で参照履歴を確認したいユーザーを選択し、更新ボタンをクリックすることで、履歴を確認できます。

対象ユーザー欄に表示されるユーザーを絞り込むことも可能です。対象ユーザー欄のテキストボックスにユーザー名、ID、部・課名称の一部を入力することで、ユーザーを絞り込んで対象ユーザー欄に表示することができます。表のタイトルをクリックするとソートされます。

検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、Excelファイルとして取り出すことも可能です。

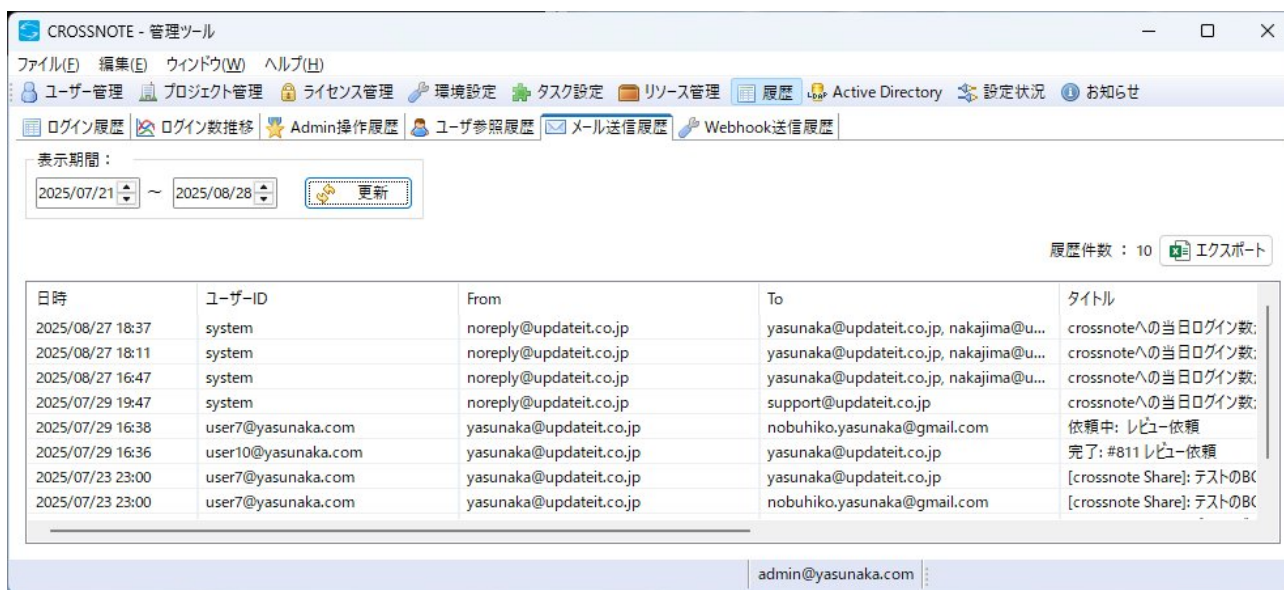
ユーザー参照履歴の項目

項目名	説明
日時	操作を行った日時
操作	操作名称
プロジェクト名	対象のプロジェクト名
ドキュメント	対象のドキュメント名
Apis URI	対象のドキュメントのApis URI

8-5 メール送信履歴について

メール送信履歴画面では全ユーザーのcrossnote、SHARE、Contact Reportでのメール送信履歴を確認することができます。一度に表示できる件数の上限はありません。表示期間に制限はなく、利用開始から本日までのメール送信履歴を確認することができます。検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、Excelファイルとして取り出すことも可能です。

メール送信履歴画面は以下のようになっています。



メール送信履歴の項目

項目名	説明
日時	メール送信日時
ユーザーID	メール送信者のユーザーID
From	メール送信者メールアドレス
To	メール宛先メールアドレス
タイトル	送信メールのタイトル
内容	送信メール内容
サービス	メール送信に用いたサービス名 (crossnote、Contact Report2のいずれか)

※SHAREは、crossnoteとしてサービス欄に表示されます。

また、SHAREでのユーザー追加、パスワード変更メールはメール送信履歴に表示されません。

8-6 AI稼働ログ

AI稼働ログ画面では全ユーザーのAI機能の使用状況を確認することができます。Tokenサマリーにはユーザ毎の利用状況のサマリーが表示され、その行をクリックすると選ばれたユーザの履歴のみに絞り込むことができます。検索結果はエクスポートボタンをクリックすることで、Excelファイルとして取り出すことも可能です。

AI稼働ログ画面は以下のようになっています。

CROSSNOTE - 管理ツール

ファイル(F) 編集(E) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

ユーザー管理 プロジェクト管理 ライセンス管理 環境設定 タスク設定 リソース管理 履歴 Active Directory 設定状況 お知らせ

ログイン履歴 ログイン数推移 Admin操作履歴 ユーザ参照履歴 メール送信履歴 AI稼働ログ Webhook送信履歴

表示期間: 2026/05/23 ~ 2026/06/30 更新

履歴件数: 270 エクスポート

Tokenサマリー

ユーザID	件数	入力Token	出力Token	合計Token
(全合計)	270	25,089,515	90,681	25,180,196
user6@yasunaka.com	4	18,277	1,304	19,581
user7@yasunaka.com	237	24,892,592	82,560	24,975,152
user8@yasunaka.com	29	178,646	6,817	185,463

開始時刻	終了時刻	ユーザID	ステータス	処理名称	プロンプト	入力Token	出力Token
2026/06/30 23:14:14	2026/06/30 23:14:24	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	crossnoteでコミットするにはどうし...	20,022	765
2026/06/25 17:37:56	2026/06/25 17:38:18	user7@yasunaka.com	COMPLETED	改善フィードバック・ルール...	Your role is that of a rule mak...	16,612	1,972
2026/06/25 17:21:33	2026/06/25 17:21:43	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	【ユーアで聞くとフリーズするよ】D...	5,643	363
2026/06/25 17:20:50	2026/06/25 17:20:57	user7@yasunaka.com	FAILED	AIエージェント	GLAY_14MB.pdf<apis://p-ci0...	5,397	113
2026/06/24 23:57:28	2026/06/24 23:58:13	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	7月分をもう一度作って	222,314	183
2026/06/24 23:57:47	2026/06/24 23:58:00	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,687	575
2026/06/24 23:50:58	2026/06/24 23:51:37	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	もう一度6月分を作って	218,840	187
2026/06/24 23:51:13	2026/06/24 23:51:27	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,716	577
2026/06/24 23:47:39	2026/06/24 23:48:15	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	8月分も作って	215,389	166
2026/06/24 23:47:52	2026/06/24 23:48:05	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,666	566
2026/06/24 23:44:58	2026/06/24 23:45:43	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	7月分も作って	211,957	169
2026/06/24 23:45:11	2026/06/24 23:45:32	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,892	653
2026/06/24 23:40:27	2026/06/24 23:41:06	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	はい。実行してください。	208,476	203
2026/06/24 23:40:40	2026/06/24 23:40:56	user7@yasunaka.com	COMPLETED	ファイルの中身を修正する	Modify the contents of the fil...	2,553	432
2026/06/24 23:35:02	2026/06/24 23:35:15	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	請求書2020-AAA-001-202604....	205,014	410
2026/06/24 23:33:51	2026/06/24 23:34:02	user7@yasunaka.com	COMPLETED	AIエージェント	セキュリティポリシーだけに限定して	201,685	38

admin@yasunaka.com

検索結果の表を右クリックすると「詳細...」「会話を追跡...」のメニューが表示されます。

詳細画面は以下のようになっています。

AI稼働ログ

×

ステータス

開始時刻 2026/06/24 23:51:13

終了時刻 2026/06/24 23:51:27

ユーザID user7@yasunaka.com

処理名称

モデル

提供ベンダ

Reasoning Effort

Prompt cache

入力Token

出力Token

合計Token

消費率(%)

プロンプト

Modify the contents of the file according to the following instructions.

以下のExcelファイルの内容を、書式や数式はできるだけ維持したまま更新してください。

更新内容:

1. 請求番号を `2020-AA-001-202604` から `2020-AA-001-202606` に変更

2. 明細中の `(2026年4月分)` をすべて `(2026年6月分)` に変更

3. 明細中の `(2026年3月分)` を `(2026年5月分)` に変更

4. 支払期限 `2026年5月末` を `2026年7月末` に変更

それ以外の内容、レイアウト、数式、金額、書式は変更しないでください。

Make sure that the formatting, fonts, border information, etc. are not changed.

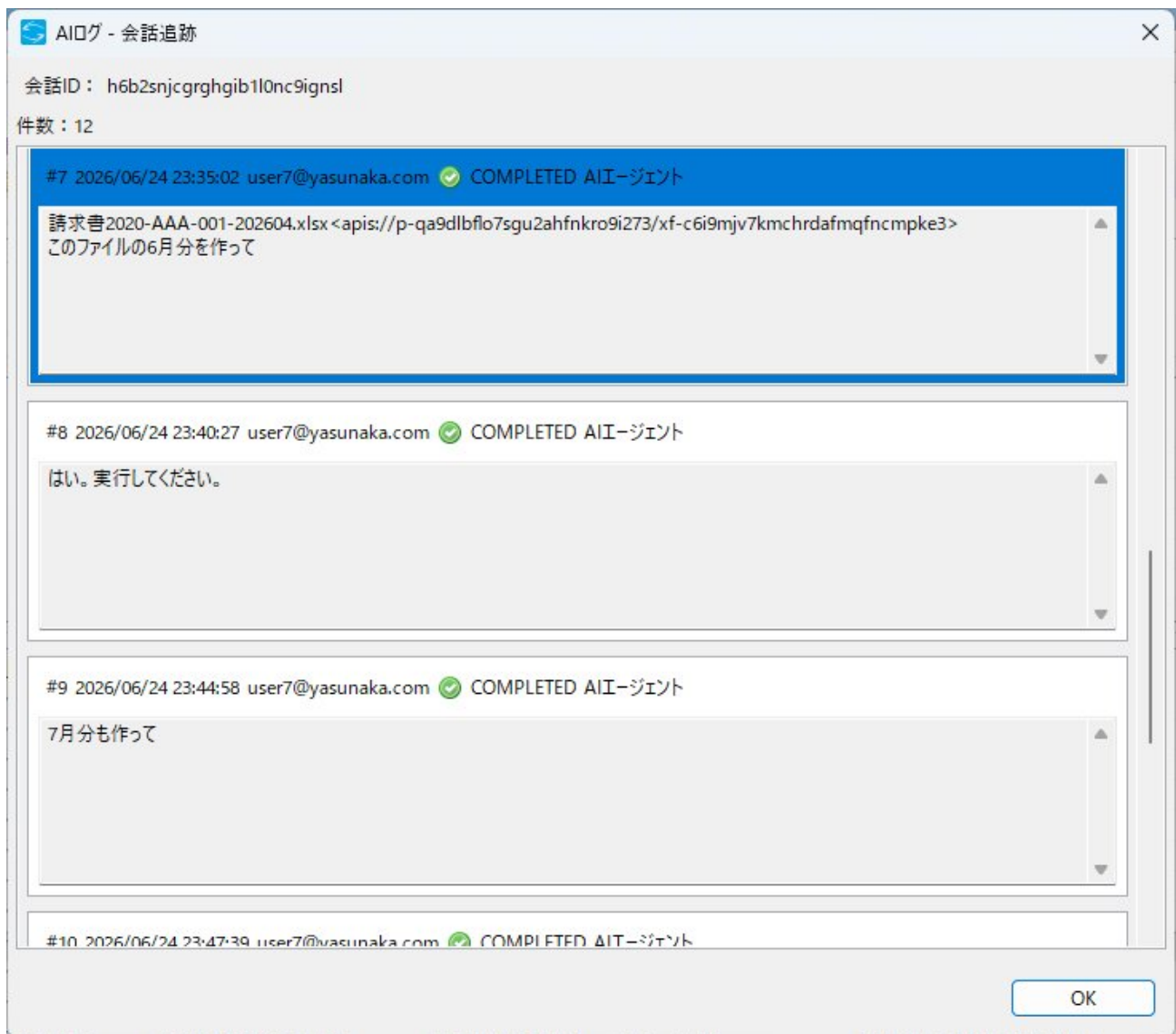
In cases where you need to change the date, please also handle cases where the serial number represents a date using formatting.

Please note that in addition to the standard formatting, dates may be represented using user formatting.

In this case, do not change the formatting.

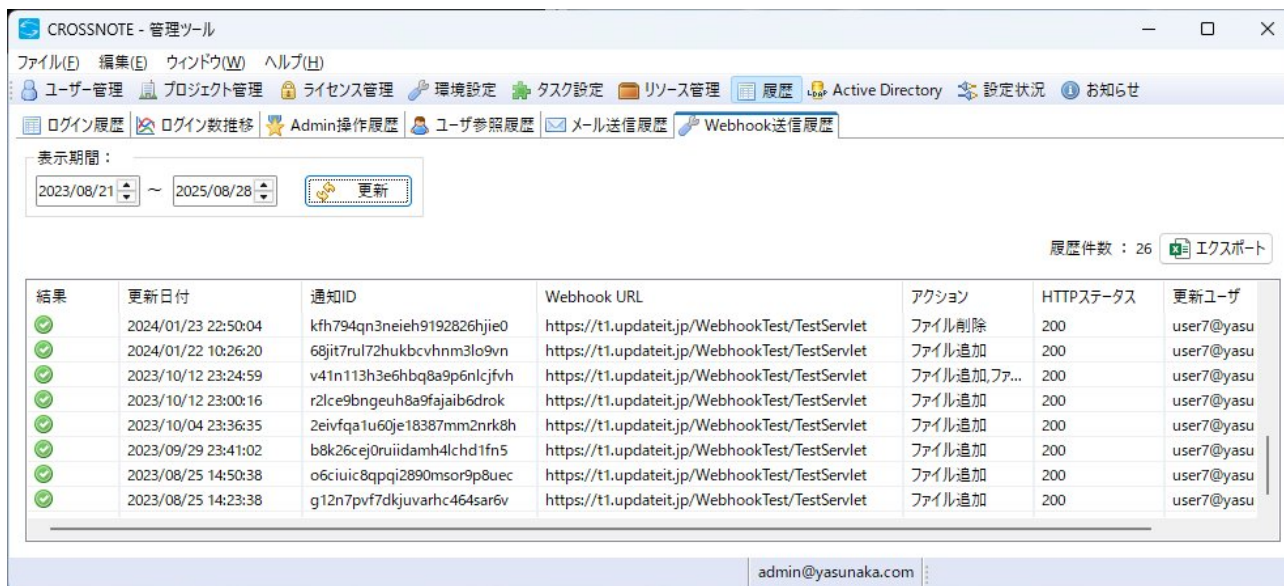
OK

会話の追跡を選ぶと、セッション内のプロンプトのリストが表示されます。



8-7 Webhook送信履歴

Webhook送信履歴では、タスク管理においてWebhookを設定している場合に、トリガーによってWebhook送信を行った履歴を参照することができます。なおこの履歴はWebhookのサイトライセンス(jp.updateit.apis.option.webhook)が設定されている場合にのみ表示されます。



結果	更新日付	通知ID	Webhook URL	アクション	HTTPステータス	更新ユーザ
✓	2024/01/23 22:50:04	kfh794qn3neieh9192826hjje0	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル削除	200	user7@yasu
✓	2024/01/22 10:26:20	68jit7rul72hukbcvhn3lo9vn	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/10/12 23:24:59	v41n113h3e6hbq8a9p6n1cjfvh	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加, ファ...	200	user7@yasu
✓	2023/10/12 23:00:16	r2lce9bngueh8a9fajalb6drok	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/10/04 23:36:35	2eivfqa1u60je18387mm2nrk8h	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/09/29 23:41:02	b8k26cej0ruiidamh4lchd1fn5	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/08/25 14:50:38	o6ciuc8qpqi2890msor9p8uec	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu
✓	2023/08/25 14:23:38	g12n7pvf7dkjuvarhc464sar6v	https://t1.updateit.jp/WebhookTest/TestServlet	ファイル追加	200	user7@yasu

各行をダブルクリックすると、送信時の詳細データを見ることができます。エラーが発生した場合、エラーメッセージを参照することができます。

Webhook送信履歴

結果

更新日付 2023/09/29 23:41:02

通知ID b8k26cej0ruiidamh4lchd1fn5

Webhook URL

アクション ファイル追加

HTTPステータス 200

更新ユーザ user7@yasunaka.com#22

送信メッセージ

{
 "id": "b8k26cej0ruiidamh4lchd1fn5",
 "companyId": "c-yasunaka.com",
 "projectId": "p-n9vtmqvi6kajk6b8sqhrpicn15",
 "date": "2023-09-29 23:41:02",
 "files": [
 {
 "apisUri": "apis://p-n9vtmqvi6kajk6b8sqhrpicn15/xf-g2vm6fusuc0ha09h19qhglijj5g",
 "nodeId": "xf-g2vm6fusuc0ha09h19qhglijj5g",
 "filePath": "/#8488/実行結果.xlsx",
 "action": "ADD_FILE",
 "documentStatus": "作成中"
 }
],
}

返信ヘッダー

Date: Fri, 29 Sep 2023 14:41:03 GMT
Server: Apache/2.4.6 (CentOS) OpenSSL/1.0.2k-fips mod_wsgi/3.4 Python/2.7.5
Content-Length: 0
Keep-Alive: timeout=5, max=100
Connection: Keep-Alive

エラーメッセージ

OK

9 Active Directoryとの連携

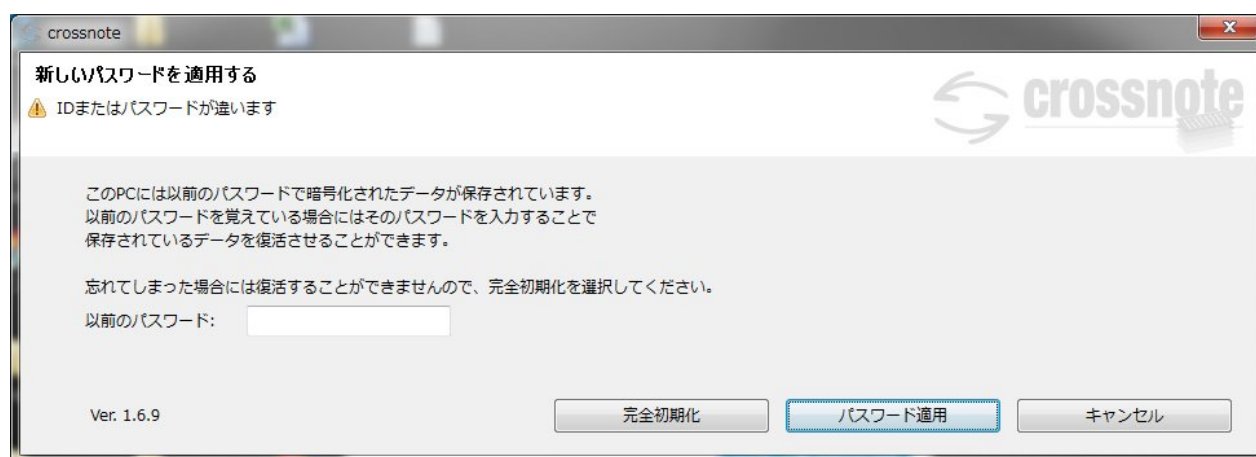
9-1 crossnoteにおけるActive Directoryとの連携機能の仕組みについて

オンプレミスタ입でcrossnoteサーバーを自社運用する場合には、自社のActive Directory(以下、ADと省略)と連携してユーザー管理を行うことができます。これを行うには導入時にADとの連携設定を行っておく必要があります。

ADで同期する場合、AD側と同じユーザーIDが既にcrossnoteに登録されている場合、そのユーザーはADでの同期はできません。ADで同期できるのはcrossnote上では新規ユーザーのみとなる点に注意してください。

ADで行ったユーザー属性の変更は自動的に同期を取るのではなく、「ユーザーの属性同期」を行ったときに取り込みます。

ADと連携した場合、パスワードはAD側で認証されます。このためパスワード変更はcrossnoteのログイン画面ではできなくなり、Windows側で行うことになります。ただしcrossnoteではローカルPCの暗号化を入力されたパスワードで行っているため、Windows側でパスワードを変更した場合、ローカルPCのデータが読み出せなくなります。この場合新しいパスワードでログイン後、以下のよう画面が表示されます。



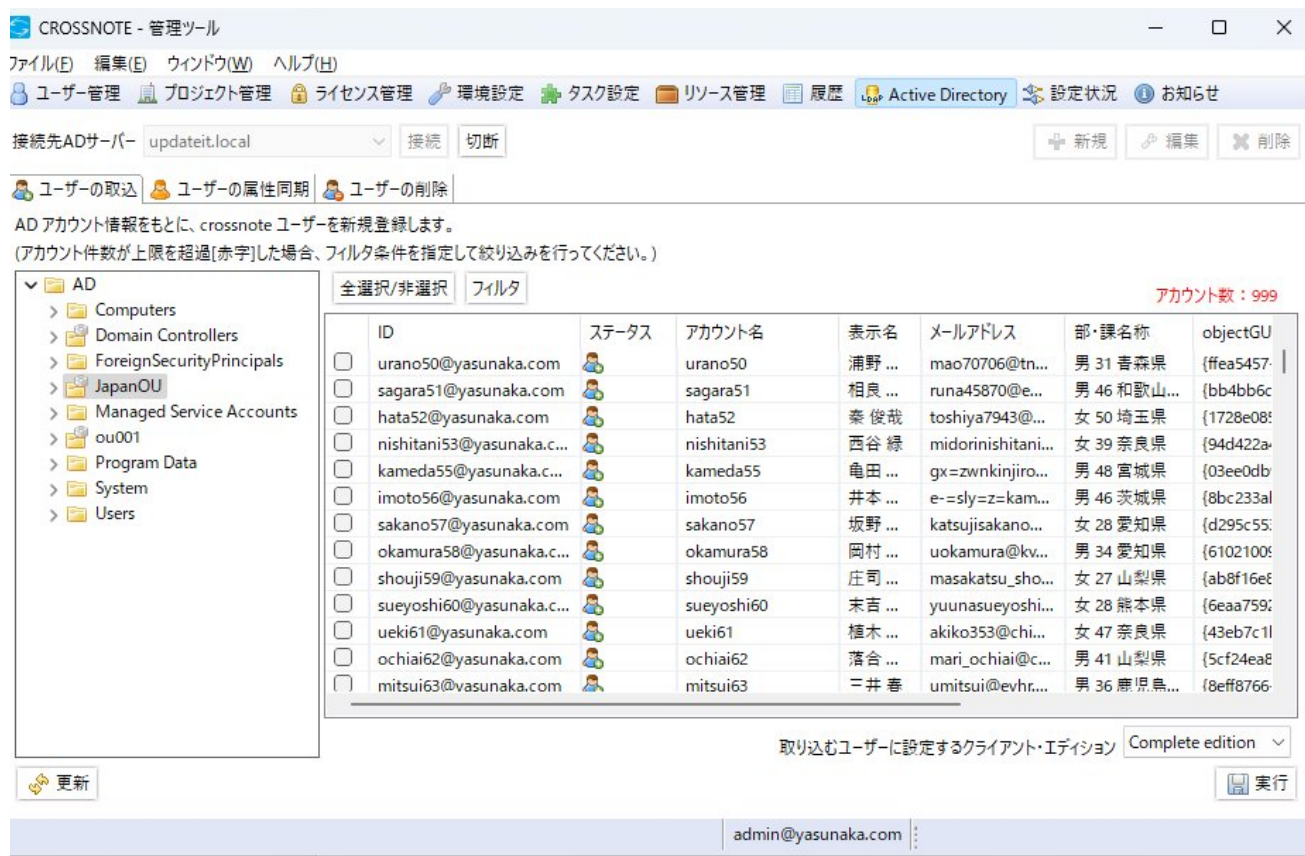
この画面で変更前のパスワードを入力すれば、そのパスワードで復号し、ローカルPCに保存されていたデータを読み出すことができます。もし変更前のパスワードを忘れてしまった場合には完全初期化を選択してローカルPCのデータを削除してください。

通常、crossnoteのパスワードはハッシュ化してサーバーに送付していますが、AD連携を行う場合

には**Plain text**のパスワードをサーバーに送ります。このため社内で利用する場合でも**SSL**で暗号化してお使いください。（なお社内のサーバーの場合、正規のサーバー証明書を取得するのが難しく自社で作成したサーバー証明書で代替する場合には、**crossnote**クライアントのプロフィール設定時に「**SSL**証明書のエラーを無視する」をチェックするようにしてください。）

9-2 Active Directory画面について

Active Directoryの初期画面は以下のようになっています。



初回のみAD接続の設定が必要です。AD接続の設定はcrossnoteサーバーに導入時に設定することも可能で、導入時に設定した場合、接続先ADサーバーの設定は表示されません。

画面に切り替えた直後は、「ユーザーの取込」タブが選択されており、ADと同期状態になっているユーザーの一覧が表示されます。各項目の意味とAD側との対応関係は以下の通りです。

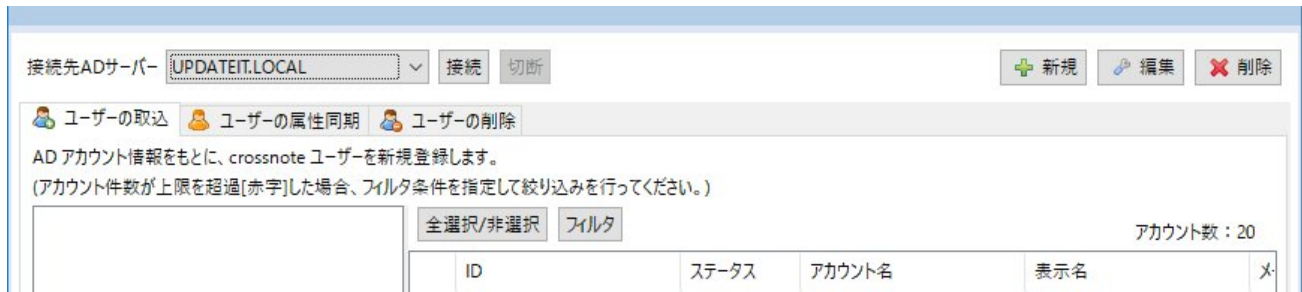
Active Directory画面の項目一覧

項目名	内容	ADの属性名
ID	crossnote上のユーザーID	-

ステータス	 取り込んでいないADのユーザー。  連携済 AD側と一致。  登録済 同名のユーザーが既に登録されている  AD側と不一致(同期が必要)。  AD側で削除された。	-
アカウント名	ADのアカウントID	sAMAccountName
表示名	ユーザー名称	displayName
メールアドレス	ユーザーのメールアドレス	mail
部・課名称	ユーザーの所属部署	department
objectGUID	ADの内部管理ID	objectGUID
uSNChanged	更新シーケンス番号 (USN)	uSNChanged

9-3 ActiveDirectory サーバーを設定する

社内で複数のドメインを運用している場合、ADサーバーを複数登録できます。



ADサーバーの情報を追加する場合、「新規」ボタンを押してください。

また、内容を修正する場合は「編集」を押してください。

不要となった接続情報を削除する場合は「削除」を押してください。

ADサーバーを削除した場合、そのADサーバーと連携していたユーザーは通常のユーザーとなります。

また、「新規」「編集」「削除」はADサーバーと接続中は押下できません。「切断」後に操作してください。

以下のダイアログが表示されます。

項目を入力し、**AD**サーバーを設定します。

ドメイン名	連携するドメインサーバーのドメイン名
ユーザー認証に使用するドメイン名	ドメイン名とユーザー認証ドメインが異なる場合に設定します。通常はドメイン名と同じ値です。
ADサーバーURL	ADサーバーを示す ldap://で始まるURL
IDとパスワードをサーバーに保存する	ユーザーID、パスワードをサーバーに保存させるかどうか。通常チェックしてください。
ユーザーID	ユーザー情報を取得するために使用するユーザーID
パスワード	ユーザー情報を取得するために使用するユーザーのパスワード
Emailフィールド	ADサーバーでメールアドレスが格納されているフィールド名。不明な場合は空白とします。
所属フィールド	ADサーバーで所属情報が格納されているフィールド名。不明な場合は空白とします。
暗号化	ADサーバーとの接続にMD5暗号化を用いるかどうか。通常チェックしてください。

※「IDとパスワードをサーバーに保存する」「ユーザーID」「パスワード」が未入力の場合、ユーザー管理画面にActive Directoryユーザーアイコン、下段のADアカウントが表示されません。

9-4 Active Directoryのユーザーをcrossnoteへ取り込む

ADサーバーと接続していない場合、まずADサーバーを選択し、ADサーバーと接続してください。

この「接続」操作はユーザー管理の為に使用するADサーバーを選択することである、ユーザーがcrossnoteを使用する上でのログインには一切影響しません。



ADのユーザーをcrossnote側に取り込むには、対象となるフォルダを選択すると取込可能なAD側ユーザーの一覧が表示されますので、取り込みたいユーザーのチェックボックスにチェックを入れ、右下の「実行」を押します。

(1) 対象フォルダを選択

AD アカウント情報をもとに、crossnote ユーザーを新
(アカウント件数が上限を超過[赤字]した場合、フィルタ条件を指定して取り込みを行います。)

全選択/非選択 フィルタ アカウント数: 999

ID	ステータス	アカウント名	表示名	メールアドレス
☒ oobuchi17@yasunaka.c...		oobuchi17	大淵 敏郎	uoobuchi@nwvhk
☒ terauchi18@yasunaka.c...		terauchi18	寺内 昭吉	shoukichi4443@yz
☒ ohara19@yasunaka.com		ohara19	小原 敦司	atsushi026@feqbil
☐ hayakawa20@yasunaka....		hayakawa20	早川 咲奈	sana69242@xxqjif
☐ kiyono21@yasunaka.com		kiyono21	清野 光信	Mitsunobu_Kiyon
☐ tamura22@yasunaka.com		tamura22	田村 実結	Miyu_Tamura@zu
☐ shirakawa23@yasunaka....		shirakawa23	白川 郁子	ikuko_shirakawa@
☐ akiba24@yasunaka.com		akiba24	秋葉 音羽	Otoha_Akiba@yu
☐ hosoi25@yasunaka.com		hosoi25	細井 昌子	masako242@snmc
☐ nishitani26@yasunaka.c...		nishitani26	西谷 理絵	rie7833@kycfm.fbi
☐ ooniwa27@yasunaka.co...		ooniwa27	大庭 芽生	bwgryttihgatwme
☐ oomori28@yasunaka.com		oomori28	大森 花蓮	karen74114@lyvjzf
☐ oguri29@yasunaka.com		oguri29	小栗 真由	mayuoguri@mrab
☐ ariga30@yasunaka.com		ariga30	有賀 雪菜	q=xv-wchgyyukin
☐ ikegami31@yasunaka.c...		ikegami31	池上 純一	junichi138@myvho

取り込むユーザーに設定するクライアント・エディション Complete edition

更新 実行

(2) チェックを入れたユーザーについて、
「ユーザーの取込」を実行する

ユーザーが多い場合は、「フィルタ」を押すとアカウント名、表示名、部・課名称で絞り込みを掛けることができます。

9-5 Active Directory側の変更を取り込む

ADサーバーと接続していない場合、まずADサーバーを選択し、ADサーバーと接続してください。

この「接続」操作はユーザー管理の為に使用するADサーバーを選択することである、ユーザーがcrossnoteを使用する上でのログインには一切影響しません。



ADのユーザーの属性変更をcrossnote側に取り込むには、「操作」の「ユーザーの属性同期」を実行します。



下に属性が変更されたAD側ユーザーの一覧が表示されますので、取り込みたいユーザーにチェックを入れ、下の「実行」ボタンを押すとAD側のユーザーを取り込むことができます。

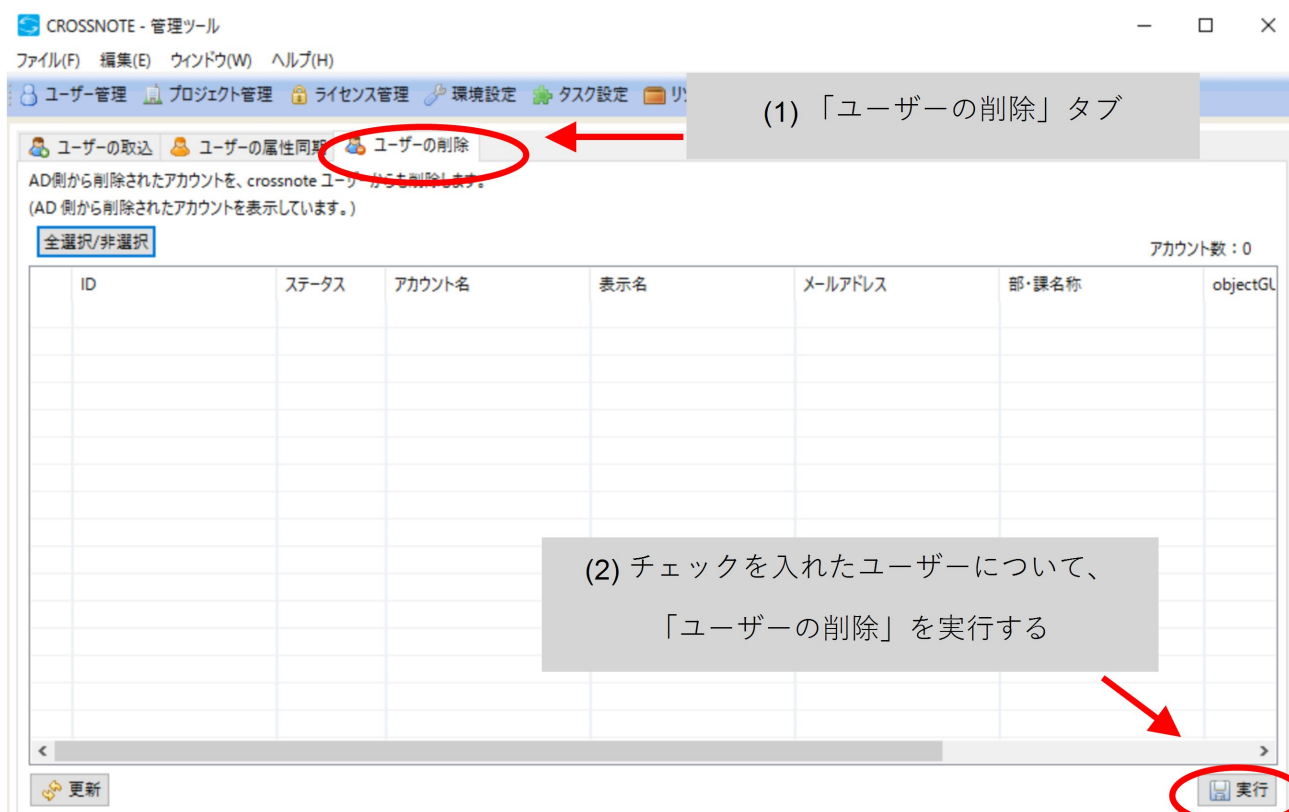
9-6 Active Directory側で削除されたユーザーを削除する

ADサーバーと接続していない場合、まずADサーバーを選択し、ADサーバーと接続してください。

この「接続」操作はユーザー管理の為に使用するADサーバーを選択することである、ユーザーがcrossnoteを使用する上でのログインには一切影響しません。



AD側のユーザー削除をcrossnote側に反映させるには、「ユーザーの削除」タブで実行します。表にはAD側から削除されたユーザーの一覧が表示されますので、対象ユーザーにチェックを入れて「実行」してください。



10 設定状況

10-1 Pluginのバージョン

各crossnoteクライアントにおいてインストールされているプラグインの状況を確認するための画面です。オプションのプラグインを導入している場合に、ユーザの導入状況を確認することができます。

ユーザID	ユーザ名	クライアントPC名	Plugin ID	バージョン	チェック日付
user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0007	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20231130	2023-12-27 19:32:55
user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0010	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.7.20231231	2023-12-27 12:28:01
user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0011	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20231130	2023-12-01 13:49:59
user7@yasunaka.com	ユーザ7	PC0015	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.7.20231231	2023-12-27 15:04:42
user7@yasunaka.com	ユーザ7	devsv06	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.7.20231231	2023-12-21 15:12:17
user7@yasunaka.com	ユーザ7	mac002.local	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20231130	2023-12-27 19:25:01
user7@yasunaka.com	ユーザ7	note007	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.7.20231231	2023-12-26 22:55:02
user7@yasunaka.com	ユーザ7	note009	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20230930	2023-12-07 00:03:59
user8@yasunaka.com	ユーザ8	PC0015	jp.updateit.apis.option.docflow	2.1.6.20230930	2023-11-14 12:18:22

なおこの機能はcrossnoteクライアント、admintool、およびcrossnoteサーバーがver 2.1.6以降の場合にご利用になれます。

◆ 絞り込み条件

対象とするプラグインを指定します。なおここに表示されるのは **jp.updateit.apis** で始まるプラグインのみとなります。

◆ 更新ボタン

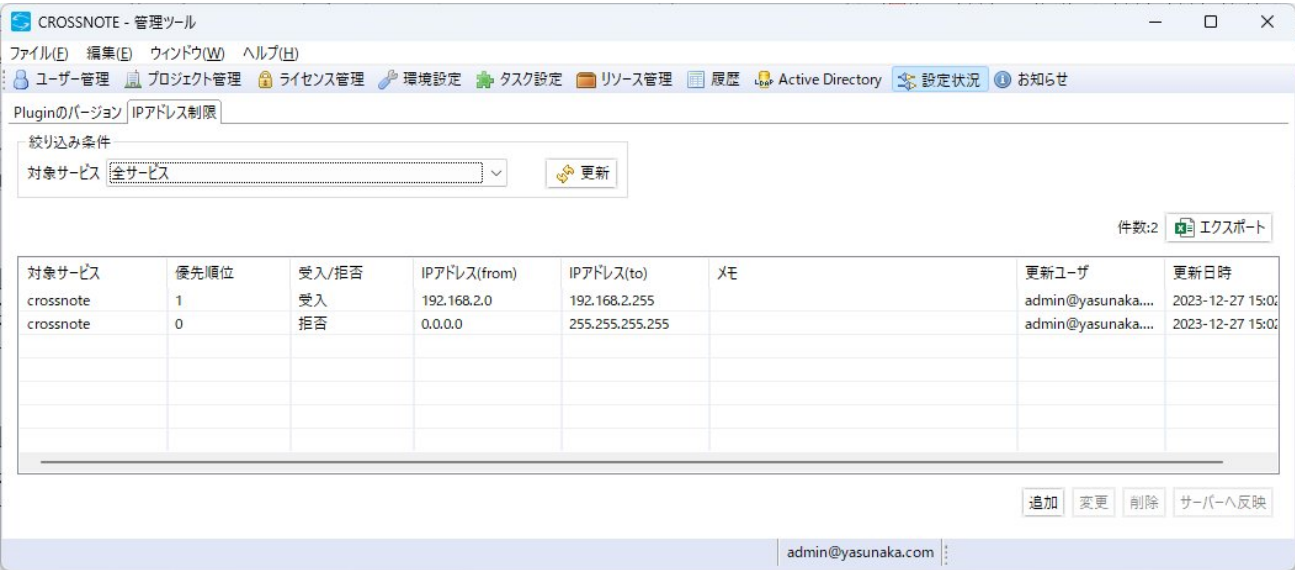
表示内容を更新します。

◆ エクスポートボタン

画面に表示されている内容をExcelファイルにエクスポートします。

10-2 IPアドレス制限

IPアドレス制限は利用するPCのIPアドレスの範囲について制限をかける機能で、サービスごと(crossnote, admintool, hive, share, または「全サービス」)に接続の可否を指定することができます。範囲の指定方法(制限のルール)としてはブラックリスト方式(特定のIPアドレスからの接続を禁止)、もしくはホワイトリスト方式(特定のIPアドレスからのみ接続できるようにする)のいずれも可能です。



複数の制限のルールが設定でき、同一サービス内で優先度の高いものから順に評価され、マッチした制限のルールが適用されます。個別のサービスごと(crossnote, admintool, hive, share)の設定の制限のルールが評価され、そこで制限のルールが指定されていない場合に全サービスでの設定が評価されます。

項目名	説明
対象サービス	crossnote, admintool, hive, share, または「全サービス」
優先順位	数字が大きいほど優先的に適用されます。
受入/拒否	指定したIPアドレスの範囲を受け入れるのか、拒否するのかの設定
IPアドレス(from)	IPアドレスの開始範囲。IPv4形式(xxx.xxx.xxx.xxx)で指定します。
IPアドレス(to)	IPアドレスの終了範囲。IPv4形式(xxx.xxx.xxx.xxx)で指定します。
メモ	

ブラックリスト形式（特定のIPアドレスからの接続を禁止）で指定する場合、拒否したいIPアドレスの範囲を指定します。

ホワイトリスト方式（特定のIPアドレスからのみ接続できるようにする）で指定する場合、優先順位を0として全IPアドレスの範囲を拒否する設定とし、それより上の優先順位でアクセスさせたいIPアドレスの範囲を受入で設定します。

追加、変更、削除などで操作を行った後、「サーバーへ変更」ボタンを押すと設定がサーバー側に反映されます。

なおadmintoolに対する設定を行う場合、このIPアドレス制限の操作を行っているPCのIPアドレスが含まれている場合にはサーバー側への反映時に失敗するようになっています。

◆ 絞り込み条件

対象とするサービスを指定します。IPアドレス制限の追加・変更・削除を行った後、サーバーへの反映を行う前にこれを切り替えると変更内容が破棄されますので、ご注意ください。

◆ 更新ボタン

表示内容を更新します。IPアドレス制限の追加・変更・削除を行った後、サーバーへの反映を行う前にこれを切り替えると変更内容が破棄されますので、ご注意ください。

◆ エクスポートボタン

画面に表示されている内容をExcelファイルにエクスポートします。

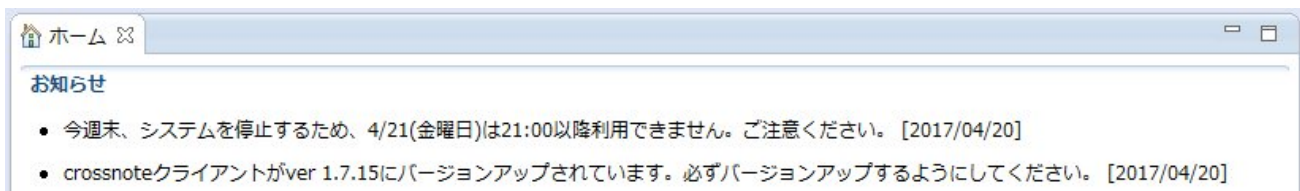
11 お知らせ

管理者からcrossnoteユーザへの告知のための機能が「お知らせ」です。

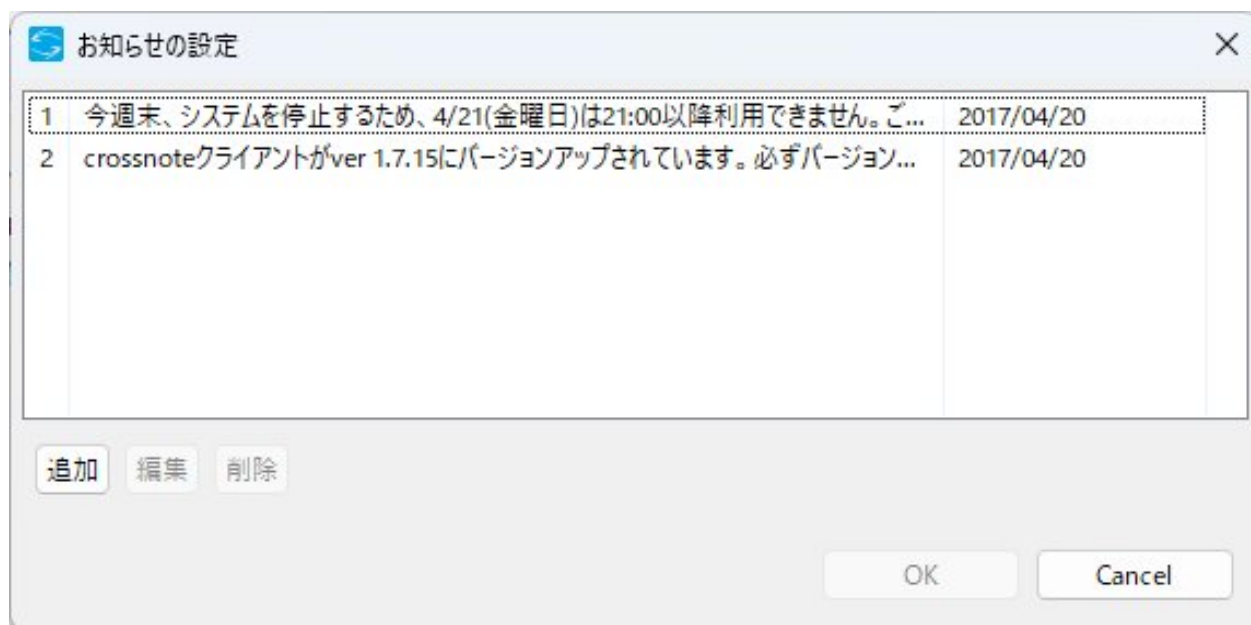


設定したお知らせはcrossnoteクライアントの場合、ホーム画面に表示されます。

ホーム画面でのお知らせの表示例



お知らせの内容を変えるには、「編集...」ボタンを押し、お知らせの設定画面で内容を編集します。



12 用語集

第1言語 / 第2言語	crossnoteでは名称などは第1言語、第2言語と2つの言語で設定できるようになっています。第1言語はローカル言語、第2言語は共通コミュニケーション用言語として使用します。日本語環境で使う場合には第1言語を日本語、第2言語を英語とすると良いでしょう。
所属会社	複数の会社間で共用する場合や、協力会社の社員に使ってもらう場合の、ユーザーの所属する会社を指します。
ポートフォリオ	プロジェクトを束ねたものをポートフォリオと呼びます。ポートフォリオは階層的に定義することができます。
プロジェクト	ドキュメントを管理する入れ物。プロジェクト毎にユーザや権限、各種設定を切り替えることができます。
ドキュメント・ステータス	「作業中」「公開」「承認済み」など、ワークフローにおけるドキュメントの状態を表します。ワークスペースビューにおいては、ドキュメントの右側に (作業中) などのように表示されます。
タグ	ドキュメントを整理する上でのキーとなる属性で、ワンタッチで対象のドキュメントを絞り込むことができます。1つのドキュメントに複数のタグを設定することが可能です。
属性キーワード	ドキュメントのプロパティで設定することができる、外部化された属性項目。crossnoteドキュメントでは文章やヘッダー、フッターなどに利用することができます。また「ドキュメント作成時に入力項目とする」設定の属性キーワードは、ファイルの作成時に入力項目となり、計画・管理画面では一覧が可能となります。
ライセンス	crossnoteを利用できるユーザーの数や、利用できる機能を管理するための情報です。

エディション

ユーザーが利用できるメニューをパッケージ化したもので、ライセンスはエディション毎に設定されます。

追加機能ライセンス

通常のcrossnoteの機能に追加することで別料金にて利用できる機能のライセンスです。ブラウザからcrossnote内のドキュメントを高速全文検索できるようになるcrossnote-hiveや、薬事業務に特化したeCTDオプションといったものがあります。

サイトライセンス

追加機能ライセンスの一種ですが、違いはサイトライセンスがユーザー数に応じた課金ではなく、会社単位での課金となる点です。